

数量	輸											計	
	包種茶	烏龍茶	紅茶	絲織物	石	炭	鹹乾魚	毛織物	燒寸	樟腦	芭蕉實		鳳梨罐詰
昭和十年八月	454	1,310	136	802	11	948	38	60	64	1,059	24	—	—
前年同月	538	835	69	562	10	523	12	59	66	2,388	20	—	—
昭和十年一月以降累計	517	546	288	68	11	766	7	48	6	850	21	—	—
前年同月	2,949	2,787	906	9,367	105	4,486	217	997	706	28,059	175	—	—
前年同月累計	2,963	2,265	3,319	3,832	105	3,985	50	816	1,379	27,580	103	—	—
昭和十年八月	275	834	89	145	102	144	62	32	88	37	54	821	2,683
前年同月	316	545	40	100	99	84	27	31	89	69	44	1,391	2,835
昭和十年一月以降累計	317	378	182	14	96	101	16	23	10	25	84	553	1,799
前年同月	1,766	1,741	530	1,647	948	667	356	493	912	647	393	13,811	23,911
前年同月累計	1,625	1,359	1,995	771	939	542	139	410	1,366	594	284	5,611	15,835

数量	輸											計	
	肥料	揮發油	鐵	大豆	包滯	カンニ	紗	黃麻	綠豆	金針菜	阿片		其他
昭和十年八月	32,950	94	1,331	5,508	1,368	412	7,601	231	541	99	9	—	—
前年同月	58,946	705	1,240	6,644	509	304	6,259	602	568	18	—	—	—
昭和十年一月以降累計	30,713	—	1,272	3,913	463	493	5,468	302	452	94	—	—	—
前年同月	335,110	2,034	6,836	44,404	3,356	5,303	39,531	2,390	2,982	234	15	—	—
前年同月累計	360,333	1,573	5,655	43,520	3,743	3,382	52,088	869	2,877	296	—	—	—
昭和十年八月	1,549	50	45	313	112	135	261	39	34	28	156	453	3,175
前年同月	2,892	419	116	410	43	94	210	89	36	6	—	809	5,124
昭和十年一月以降累計	1,305	—	172	175	33	152	163	39	23	22	—	771	2,855
前年同月	15,274	1,174	472	2,748	291	2,106	1,431	346	208	71	275	5,538	29,934
前年同月累計	13,728	1,067	622	1,775	272	1,268	1,574	117	134	70	—	5,256	25,883

数量	移											計	
	砂糖	米	芭蕉實	帽子	鳳梨罐詰	鐵	酒精	樟腦油	樟腦	切乾薯	紅茶		其他
昭和十年八月	3,111	1,373	147	405	582	10,474	16,904	340	137	6,686	247	—	—
前年同月	6,382	1,890	295	324	215	13,860	9,579	301	147	3,490	40	—	—
昭和十年一月以降累計	12	2,004	86	759	435	19,069	12,175	200	37	7,422	155	—	—
前年同月	1,326,556	6,411	2,162	4,032	2,255	115,156	111,769	2,675	1,347	33,877	482	—	—
前年同月累計	987,151	7,563	1,983	9,332	1,652	95,602	89,495	2,753	1,056	28,035	449	—	—
昭和十年八月	365	13,818	475	165	1,394	613	559	146	183	181	207	1,632	19,727
前年同月	606	18,454	949	135	480	724	340	145	196	110	38	1,673	23,850
昭和十年一月以降累計	2	16,800	340	229	943	886	641	101	35	245	187	1,413	21,822
前年同月	134,799	64,458	7,959	1,911	5,125	6,091	4,966	1,323	1,717	966	467	12,245	242,027
前年同月累計	109,100	59,342	6,434	2,467	3,500	5,102	4,866	1,172	1,175	770	576	11,044	205,548

数量	移											計
	糧及精	鐵	鹹乾魚	木材	肥料	小麥粉	鐵製品	自動車	紙	毛織物	紙捲煙草	
昭和十年八月	—	6,564	4,149	743	45,608	141	—	—	—	—	85,300	—
前年同月	—	10,027	3,030	969	26,820	104	—	—	—	—	78,900	—
昭和十年一月以降累計	—	5,454	1,824	736	42,714	101	—	—	—	—	57,500	—
前年同月	—	60,023	19,168	7,869	171,663	772	—	—	—	—	619,000	—
前年同月累計	—	41,441	13,677	5,806	115,409	567	—	—	—	—	582,520	—
昭和十年八月	1,574	1,078	556	556	4,601	438	339	617	353	355	578	8,841
前年同月	1,325	1,441	431	746	2,270	322	372	456	425	248	528	8,735
昭和十年一月以降累計	1,313	930	283	525	3,454	333	372	542	368	231	118	8,205
前年同月	13,359	9,859	2,564	6,224	15,279	2,652	3,319	3,919	3,210	1,043	4,240	69,099
前年同月累計	9,660	7,299	1,886	4,400	8,813	1,944	2,882	3,271	2,895	692	1,191	60,171

臺灣金融經濟月報

昭和十年十一月二十七日發行 每頁五分 郵政特准掛號認爲新聞紙類 第三三三號

大分商學工業學校  
1.11  
定期刊行  
商事調査部  
臺灣金融經濟月報  
(保田順取題字)

(第七三號)

昭和十年十一月號

(本誌より臺灣各地手形交換所組合銀行動定四表を採録し尙諸記事の活字をポイントに改め行間を擴大せり)

研究資料目次

- 證券取引所設置問題
- 最近本島に於ける廣巾綿布の伸縮輸出貿易と生産状況
- 本島切乾薯と全國新式洗滌器
- 鐵節の肝臟取引に就いて
- キャツサバ栽培に就いて
- 附・臺灣金融經濟月報配付先(二)

財界錄事 (△印は内閣の事項にて著 圓に括弧あるものを示す)

**財政及金融**  
△滿洲國に於ては國幣信用の増大を圖る目的を以て日滿通貨の統制に關し、日本中央の諒解の下に實行に決定せる諸方策は下の如し。  
滿洲國爲替管理法の實施・鮮銀券の滿洲國內流通は漸次國幣を以て全額代位せしむる事、鈔票を廢し金建を採用すると共に關東州内に國幣の流通を認むること其他(10/20電通)  
△中華民國に於ては幣制を下の如く改革し、十一月四日より其の實施に取られり。  
銀貨流通禁止・中央、中國、交通各銀行紙幣をLegal tender とし其他銀行の紙幣發行停止・一海關金單位2.27五亦見當にFix之を基礎として新紙幣發行舊來の紙幣併用のこと・銀保有者に對し紙幣一圓にて強制引換のこと。  
**米**  
△十一月一日現在朝鮮米豫想收穫高は17,852千石にして、之を第一回豫想收穫高に比すれば33千石、前年度實收穫高に比すれば1,185千石の各増加なり(朝鮮總督府農林局發表)。  
△十月末現在全國米作豫想(第二回)收穫高は57,059,780石にして第一回豫想收穫高に比し3,504,900石の減少なり(農林省發表)。

**砂糖**  
▲新竹州下に於ける赤糖業者は販賣統制を旨として新竹州赤糖協會を組織し十一月四日州廳に於て創立總會を開催せるが、協議の結果全島赤糖業者聯合の強力團體組織に意見纏まり委員十名を選出して中旬臺北に開催さるべき全島赤糖業者聯合會に出席して一切の協議に參與する事となれり。  
▲臺中州赤糖協會は十一月七日臺中市に於て創立總會を開催せり。  
▲糖業聯合會に於ては昭和十一年度砂糖供給協定取極めの爲め十月三十一日委員會を開催下の如く協

臺灣銀行調査課  
御注意 本誌附録として御回答用紙刷込置候間何率御回答相煩度御回答無之向には今後寄贈方御遠慮申上ぐるやも不計候

定成立せり。

(一)協定期間・11/4/1—12/3/31(臺灣は11/1/1—11/12/31)。

(一)供給數量・一糖 2,100 千擔、二種直消糖及び耕地白糖 8,900 千擔、精製糖 4,000 千擔、計 15,000 千擔(北海道甜菜糖及沖繩産糖を除く)。

(一)各社割當量・帝國は 1,050 千擔とし、臺灣(大東島を含む)及び南洋産糖の國內供給數量より帝國製糖の割當量を控除したる殘額を兩餘各社の全供給數量とす、其割當は十一年各産糖實績の比率による、但し昭和新興臺灣及三五公司源成農場の四社は産糖實績より前記四社の加算數量を夫々産糖高の按分により控除したるものを以て比率を定む。

(一)二種直消糖及び耕地白糖と精製糖との間に於て其の割當を限度とし、割當數量を振替増加し得。

▲糖業聯合會に於ては十一月四日協議會を開き昨年度産糖協定に於ける供給調節及び原料糖に関する細則につき協議を重ねこれを決定せり。

棉花

▲近來南部方面に於ては棉花栽培の有利なるに着目して之が栽培に乗り出す者多きに鑑み、臺南市臺灣織布會社に於ては同社構内に繰棉工場を新築中のところ此程竣工下機械据付工事中なり、同工場は建物敷地約百五十坪工費一萬圓にて實棉置場、清淨機一臺、繰棉機十六臺、電動壓榨機一臺、棉質置場、二十馬力電動機一基等を有し、一日能力繰棉三千斤なり。(研究資料参照)

熱帯産業調査會

▲十月十九日より五日間臺灣總督府正廳大ホールに於て開催せられたるが附録事項下の如し。

貿易の振興に關する件、工業の振興に關する件、企業及投資の助成に關する件、金融の改善に關する件、交通施設の改善に關する件、文化施設の改善に關する件。

其他

▲臺灣銀行創立以來物故せし重役並に行員百九十七名の慰靈追悼會十一月九日午後二時より臺北市南門町臺灣俱樂部内碧榕館に於て營まれ關係者多數參列嚴肅裡に擧式行はれたり。

▲内臺聯合茶業大會は十月二十五日臺北市公會堂に於て開催され來會者三百數十名に及び、内臺茶業協會設立の件輸出紅茶の品質統制強化に關する件其他數件の議決を見り續き本島茶業物故者の慰靈祭、茶業功勞者の表彰式等舉行せらる。

▲内地朝鮮南洋關東局をも包含する全國水産大會は十月三十、三十一兩日臺北市公會堂に於て華々しく開催せられ、九百六十餘名の參會者あり下記提案を見たり。

高雄漁港完成促進方建議の件・漁業組合中央金庫設置方建議の件・南洋漁業の開発促進に關し必要なる施設の整備擴充要望の件・水産物の支那輸出に關する件・南方水産業の統制ある振興に關し建議の件・臺灣西部海岸適當の個所に漁港築設方建議の件其他。

▲第二十三回日本鑛業大會(臺灣二回目)は十一月五、六兩日臺北市明石町警察會館に於て開催され、臺灣の石油地質、東部臺灣の砂金、天然瓦斯の利用其他數項の學術講演あり二百餘名の出席を見盛會裡に終了せり。

昭和十年十一月二十日發行分月一四十五日發行第三號臺灣總督府

昭和十年十月中會社調 (※は株式、△は合資、◎は合名)

新設

※春帆拓殖株式會社・本店南投郡草屯庄・資本金六十萬圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役黃泰帆他二名・設立九月二十二日。

※臺灣婦人社・本店臺北市本町・資本金二萬圓・一株二十圓(全額拂込)・取締役古賀千代子他四名・目的雜誌發行・設立三月二十七日(十月八日登記)。

※日月潭遊覽船株式會社・本店新高郡魚池庄・資本金一萬五千圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役黃登鳳他二名・設立九月二十一日。

※臺灣製粉株式會社・本店花蓮港街舊新港街・資本金二十五萬圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役王升龍次郎他四名・設立十月三日。

※莊河鹽業株式會社・本店高雄市海門町・資本金三十萬圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役陳蝦蛤他三名・目的舊式鹽廠經營土地開墾利用其他・設立九月二十四日。

※南臺電話建物株式會社・本店高雄市鹽埕町・資本金二萬圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役陳朝選他四名・設立九月二十五日。

※仕册拓殖株式會社・本店員林郡社頭庄・資本金二十萬圓・一株五十圓(四分の一拂込)・取締役蕭大木他三名・設立八月十六日。

△維持水紙店・本店臺北市末放町・出資金四千圓・社員持木末吉他三名・目的紙類石鹼食品商・設立九月二十六日。

△泰亦泰商行・本店臺北市太平町・出資金三萬圓・社員張亦樂他十名・目的吳服商・設立九月二十六日。

△義豐商行・本店新竹郡舊港庄・出資金二萬圓・社員廖進傳他七名・目的米穀及不動產賣買・設立十月一日。

△中央自動車商會・臺北市西門町・出資金八千八

百圓・社員烏居秀雄他八名・設立九月二十五日。

△建裕商行・本店基隆市玉田町・出資金一萬圓・社員何微力他三名・目的米穀賣買・設立十月一日。

△九源タクシー・本店臺北市北門町・出資金一萬圓並に現物・社員小宮山徳次他一名・設立八月二十九日。

△義南檢番・本店臺南市西門町・出資金三千圓・社員永野鶴太郎他十四名・設立十月一日。

△公成商行・本店高雄市湊町・出資金六萬圓・社員林成他七名・目的問屋業及貿易業・設立十月十六日。

△楊振榮公司・本店高雄州東港郡佳冬庄・出資金九千圓・社員楊原盛他十五名・目的土地開墾改良賣買及農産物加工販賣・設立十月九日。

△進輪モータース合資會社・本店臺北市京町・出資金一萬圓・社員王有成他二名・目的自轉車商・設立十月二十二日。

△加賀谷商店・本店基隆市明治町・出資金三千圓・社員加賀谷宗助他二名・目的臺灣産竹材移輸出業・設立十月二十五日。

△貴滿泰仁記合資會社・本店嘉義市北門町・出資金二萬圓・社員黃德壽他三名・目的不動產有價證券米穀賣買並に仲立・設立十月十日。

△日光テキス合資會社・本店高雄市内惟・出資金五萬圓・社員沈崑山他十九名・設立十月二十九日。

◎和泰商行・本店臺南市永樂町・出資金十二萬圓・社員王愛惠他八名・目的織布工業並其製品賣買其他・設立十月一日。

◎七福商事合名會社・本店臺北市若竹町・出資金二萬八千圓・社員古川松治郎他六名・目的土地家屋賣買其他・設立十月十日。

◎信和合名會社・本店臺北市八甲町・出資金一萬圓・社員鹿田一二他四名・目的不動產賣買其他・設立十月十日。

### 支店設置

※東和建物株式會社・本店東京市日本橋區小舟町・支店臺中市錦町・資本金十萬圓・一株五十圓(四分之拂込)取締役李淵(臺灣)他五名・設立八月十日。

### 拂込

※永豐商店・本店高雄市湊町・資本金二十萬圓二分之拂込を十月七日全額拂込とす。  
 ※森林兼商店(支店)本店下關・資本金五百萬圓・一株五十圓(三十圓拂込)・十月十六日拂込額各株四十圓と變更す。  
 ※臺灣電燈株式會社・本店嘉義市・資本金百五十萬圓・一株五十圓(新株二萬株一株三十五圓拂込)・十月二十二日拂込額を各株五十圓と變更す。  
 ※臺灣電化株式會社・本店基隆市・資本金二百萬圓四分之拂込を二分之拂込に變更十月二十九日

### 登記。

※鹿港自動車株式會社・本店鹿港街・資本金八萬圓拂込二萬四千圓の處十月二十五日一萬六千圓の拂込を徹し二分之拂込と變更す。

### 増資

※臺灣劇場株式會社榮座・資本金九萬圓を七月一日資本金十八萬圓(一株二十圓全額拂込)に増加十月二十三日登記。  
 ※北投築業株式會社・資本金十萬圓を七月十二日十五萬圓に増加(一株五十圓、拂込新株四分之)十月二十九日登記。

### 商號變更

※基隆市街自動車株式會社は十月一日商號を基隆乘合自動車株式會社と變更す。  
 △金源發商行は十月十日商號を花蓮港蓮華合資會社と變更す。

昭和十年十一月二十日發行(六月二十日發行)第三號郵便認可

## 産業資料

昭和十年九月米稼輸出高 (公斗) (臺灣) (計)					
州廳別	蓬萊米	在來米	長糯米	丸糯米	計
臺北(一期)	217,627	10	4,407	1,809	223,853
新竹(一期)	391,619	—	200	8,607	400,426
臺中(一期)	528,843	—	—	2,782	531,625
臺南(二期)	—	—	—	8	8
高雄(二期)	55,289	8,120	6,877	706	70,992
高雄(一期)	43,053	27,515	389	77	71,034
計	1,236,431	35,645	11,873	13,981	1,297,930
計	1,236,431	35,645	12,032	13,989	1,298,097
二期	2,756,046	255,268	171,866	1,549,048	4,732,228
一期	5,325,663	83,185	14,271	71,472	5,494,591
計	8,081,709	338,453	186,137	1,620,520	10,226,819
前年同期	1,977,765	469,608	99,833	1,812,773	4,359,979
一期	6,496,368	239,695	2,254	19,793	6,758,110
計	8,474,133	709,303	102,087	1,832,566	11,118,089

備考・累計一期は本年五月、二期は昨年十月以降

### (包裝別)

麻袋	支米	在來米	丸糯米	長糯米	計
支米	1,164,381	29,228	11,632	13,698	1,218,939
在來米	47,283	6,417	400	291	54,391
丸糯米	24,767	—	—	—	24,767
計	1,236,431	35,645	12,032	13,989	1,298,097

### 昭和十年第一期米作付面積及實收高 (公斗)

水					
	蓬萊米	在來米	丸糯米	長糯米	計
作付面積(甲)	186,939	92,113	5,094	4,132	288,278
前年同期	162,766	108,751	5,438	4,759	281,714
實收高(石)	2,847,441	1,203,876	61,251	49,159	4,161,727
前年同期	2,770,982	1,485,874	68,411	60,731	4,385,998
陸					
	梗	糯	計		
作付面積(甲)	17,006	529	17,535		
前年同期	15,100	608	15,708		
實收高(石)	161,273	5,193	166,466		
前年同期	120,415	4,633	125,048		

昭和十年十一月二十日發行(六月二十日發行)第三號郵便認可

## 研究資料

臺灣金融經濟月報

### 證券取引所設置問題

(一) 證券取引所は現代經濟界の必須機關 證券取引所は公債、社債、株式の如き有價證券の大量取引に依つて其の公正なる市價を決定し、賣買擔保を容易ならしむる等種々の效果あるを以て、資本の大部分が有價證券となりて轉々流通する現時の經濟界に於ては必要缺く可らざる機關なり。而して巷間未だ證券取引所を以て單なる有價證券の賭博場視する者なきに非ざるも、熟々考ふるに世上百般の取引は何れも多少投機的ならざるは無く、殊に證券取引所は其の本質上有價證券の需給を融合して公正なる市價を決定するため、投機分子の介在を必要とするものにて、投機の行過ぎと市場の相場を悪用する賭博行為に對しては別に取締の方法もあるべし。

夫れは兎に角として、本邦に於て從來別世界視され勝ちなりし取引所に對し一般の認識高まり來り、金融機關と證券取引所と緊密なる關聯を有するに至りたるは本邦の經濟組織が愈々證券時代に入りたることを示すものなり。

(二) 臺灣に證券取引所を必要とする理由 證券取引所の有無と證券流通との關係を知るため、内地に於ける普通銀行の諸貸付及び割引手形に對する有價證券擔保放資割合を見るに、昭和八年に於て取引所ある府縣にては多きは三割六分少きも二割にして平均三割一分五厘を示し居れるが、取引所なき縣にては概して取引所所在地に遠ざかる程少く平均一割八分八厘に過ぎず、比較的經濟事情を等しうする内地間にて既に斯くの如く、之を臺灣に就て見るに其の割合僅かに七分四厘にして當行分を加ふるも尙一割に過ぎず、而も十年前

に比較し殆んど變りなく又其の大半が依然として内地株なることには注目を要すべし。

今臺灣に於ける證券取引の現状を見るに、取引所令の施行なき臺灣にては有價證券の先物取引は全然行ひ得ざるにも不拘、資金少き取扱業者にして客より受けたる注文を内地市場へ出さず、自ら其の相手となりて委託者に損害を與へ居る者少からず、臺中、臺南方面に於て其の弊害殊に著しきが如し。又現物取引に就ても、證券交換所の開設或は取扱業者定期會合すら全然行はれ居らざる現在に於ては、取扱業者の發表する現物相場なるものは區々にして何等據り所なき有様なり。

即ち臺灣地許に證券取引所の設置なきことは各種有價證券の賣買擔保化、殊に地許株の市場性に著しき障害を與へ居れりと云はざる可らず。

然るに既往は別とし、臺灣に於ては近年産業の發達に伴ひ、株式會社の數漸次増加し、證券取引所設置の必要に迫られ居り、殊に新興各種工業の發達は各國の實績に徴するも明かなるか如く、取引所の存在に俟つところ頗る多きを以て、證券取引所の設置は本島産業開發のため、從前に比し一層其の重要性を加へ來れりと云はざる可らず。

而も取引所設置の結果は臺灣に於ける新事業の企畫容易となるを以て、自然内地より資金人材を誘導し、且つ近年銀行、信用組合等が處分に憚みつゝある相當巨額の遊金に對しても活用の途拓かるべし。

(三) 同じ植民地朝鮮に於ける證券取引狀況 朝鮮には朝鮮取引所令の施行により、舊仁川米豆取引所(明治三十二年株式會社組織により創立)と

舊京城現物株式取引市場（大正九年株式會社組織により創立）とを併合し、昭和七年一月設置せられたる朝鮮取引所あり。現在京城に於て有價證券の清算域に實物取引を行ひつゝあるが、其の賣買高は左の如く逐年増加し居れり。

市場時代	長期	短期	實物	合計
昭和五年	6,610	387,020	—	393,630
同 六年	9,880	534,890	—	544,770
(取引所となりて以降)				
昭和七年	10,050	1,007,180	1,300	1,018,530
同 八年	1,610	1,541,300	10	1,542,920
同 九年	1,600	1,850,990	123,003	1,975,593

(註) 朝鮮に於ける取引高の左程大ならざるは一般民衆の財力比較的小なると、大口の取引が主として大阪に注文せらるゝためとの事なるも、取引高増加率の大なる點には注目を要す。

且つ内地取引所に上場せられずして同取引所に上場せらるゝ地許株は昭和九年末に於て長期は七十四銘柄(四十一會社)の中十七銘柄(十七會社)、短期は二十七銘柄(二十二會社)の中十三銘柄(十二會社)を占め、而も主力株九種の中四種は地許株にして、取引高の増加に伴ひ地許株の流通著しく盛んとなり居れりと言ふ。

(四) 臺灣正米市場を米穀取引所になすべしとの輿論 臺灣正米市場は大正十三年の創設に係り、當時は轉賣買戻を全然禁止せしめたため、開設後三箇月を出でずして休場の止むなきに至りしものなり。然るに昭和三年之を再開するに當りては、四十五日以内の各種取引を收容せしめたる爲め、其の發表する相場は公正に近きものとなり、農家の親賣却と一般米穀關係者の賣買に多大の便宜を與へて取引高の漸増を來し、米穀統制法の施行による米價値幅の縮少も一時取引高の減少を齎らしめたるに過ぎず、却つて投機に失する弊害を除去することとなり、臺灣正米市場は着々として堅實なる發達を遂げ居れり。

而して當局が臺灣正米市場に對し、四十五日の差金賣買の如き取引所同様の取引を默許し居れる

は、全く本島米取引の要求に基くものにて、之を九十日の長期清算取引に引直すことは更に臺灣米の取引發達を期する所以なるべく、且つ現在取引所令による取締無きため、臺中以南屏東方面に亘りて不正期米業者の跋扈甚しく、彼等は證據金手数料を減額して小口の客、無智の農民より盛んに期米の注文を取り、自ら之を呑みて正業者の業務妨害となり居れりと云はる。

依つて朝鮮米の取引が取引所の設置に依つて著しく改善せられたると同様、本島にも速かに米穀取引所を設置し、弊害の除去と取引の發達に資すべしとの輿論近時著しく高まり居れり。

(五) 會員組織を理想とする本邦政府の取引所政策 本邦に現存する證券取引所次の如し。

(株式年鑑に據る)

取引所名	創立年月	創立資本	現在資本	拂込資本	年別平均
東京株式取引所	明治 11 3	50,000	50,000	42,500	64
大阪株式取引所	同 11 6	200	45,000	29,500	75
名古屋株式取引所	同 27 1	70	6,000	4,250	092
京都(農穀)取引所	同 17 8	100	5,000	3,500	126
神戸(農穀)取引所	同 29 9	200	3,500	3,125	85
博多株式取引所	同 26 12	30	1,500	1,275	200
廣島株式取引所	同 26 12	50	500	500	250
横濱(農穀)取引所	同 27 5	200	6,500	6,500	69
新潟(農穀)取引所	同 10 3	?	200	200	200
長岡(農穀)取引所	同 27 6	?	102	102	80
長崎株式取引所	同 27 4	?	500	260	50
朝鮮(農穀)取引所	昭和 7 1	6,599	6,599	2,400	90
大連(農穀)取引所	大正 9 2	10,000	5,000	2,000	30

本邦に現存する取引所は上記の如く朝鮮及び大連のものを除き全部明治時代の創立に係り、總て株式會社組織のものなり。

然るに政府は明治時代に於ける取引所濫設の弊害に鑑み、容易に新設の許可を與へざるのみならず、本邦傳來の株式會社組織が要するに營利的且つ他治なるに反し、歐米にて發達し來れる會員組

昭和十年十一月二十日發行(毎月一回)十五日發行(第三種郵便物認可)

織が非營利且つ自治なる點を重要視して目標を會員組織に置き、大正十一年の取引所法改正に際しては本邦取引所の組織に此兩者を認めながら、而も一舉に改變することによつて起るべき經濟界への悪影響を慮りて、株式會社組織のものを漸次會員組織に轉向せしむる方針の下に種々の規定を設け居り、其の後新設せられたる商品取引所は何れも會員組織のものなり。

而して昭和七年朝鮮取引所が株式會社組織にて開設せられたるは、何れも株式會社なりし米豆取引所と株式現物市場とを合併したる爲めの過渡的例外なるべく、朝鮮取引所令は會員組織を原則とし居れり。斯く觀じ來る時臺灣に新設すべき證券取引所は會員組織として發起立案するを賢明とすべし。

(六) 會員組織による取引所設置具體案一、二

(イ) 證券部、米穀部の併置と役員 正米市場にても現に營業所の狹隘を感じ居れるに付、大稻埕に近き城内適當の場所に取引所を新築し、取引所内に證券部と米穀部を併置す。役員としては理事長一名、各部に常務理事一名、理事二名、監事二名宛を置き、役員は取引上の弊害なからしむる爲め總て會員以外の者より選任し、理事長、常務理事以外の役員は名譽職とすること。

(ロ) 會員數と出資額 會員の數を五十名、各自の出資額を三萬圓とし、二萬圓は身元保證金として現金の外公債社債株式の代用を許し全額供託のこと、而して一萬圓は證據金として現金にて受入れ、合計五十萬圓の内二十萬圓を取引所新築設備費に充て、残り三十萬圓を預金とす。

(ハ) 現物、清算市場に於ける地許株の上場 本邦證券取引の現状に照し、證券部にては清算取引を除外しては到底取引の發達を期し難きを

以て、清算取引に伴ひ現物取引を發達せしむることとし、現物清算の兩市場を開設すること。而して設立の趣旨に基き、兩市場共成るべく多數の地許株を上場せしむ、上場地許株の候補としては製糖株、臺灣電力株の外十數種は有るべく、内地主力株の上場は地許株の賣買を盛んならしむるため絶對必要なるべし。

尙米穀部に於ては大體正米市場現在の取引に準じ、唯四十五日の轉賣買戻を九十日とし、内地米穀取引所の取引に一致せしむること。

(註) 上場地許株として擧げらるゝは例へば製糖株、臺灣電力株を初め基隆炭礦、臺灣煉瓦、臺灣合同電氣、臺灣電燈、日本アルミニウム、臺灣電化、臺灣字麻紡織株其の他浮動性に富める株式なるべし。

(ニ) 收支の概算と積立金

取引所の取引が一に財界の景氣に左右せらるゝものなる以上、取引所設置後に於ける收支の豫想は勿論正浩を期し難きも、敢て現在の全島證券取引高及び正米市場の取引高を基礎とし、収入を内輸に支出を過大に見積り概算するに、

(収入) 證券取扱業者を通じ賣買せらるゝ有價證券は株式のみにて年四百萬株以上、直接内地に注文せらるゝもの百萬株以上、合計五百萬株以上あるを以て、會員より取引所の徵求する手数料を假りに十株平均一圓とせば、公債社債の手数料及び取引所開設による増収を見込まずとも、證券部のみにて年五十萬圓の收入あるべく、又正米市場にては現に一車一圓十錢の割にて年二十萬圓の手数料を得つゝあるを以て増収を見込まずとするも、兩部合計年七十萬圓の手数料收入あるべし。依つて

(支出) 下記の如く支出を多分に見積りても  
公 課 100

【 4 】

取引所法規に依れば、會員組織の取引所に對しては税金免除せられ居るも、臺灣にては現に會員組織の正米市場に課税せられ居るに付き、假りに十萬圓とせり。

人件費	135 <sup>千圓</sup>
家屋償却 (十箇年)	20 <sup>千圓</sup>
借地料 (二千坪)	6
通信印刷費	20
旅費交際費	20
消耗品	20
雜費	10
合計	331

の支出となり、預金利子其他の雜収入を見込まずとも三十六萬九千圓の純益あり。假りに役員賞與を其の 5/100 とせば年約三十五萬圓の積立をなし得べし。

(七) 結論 現時の經濟界に證券市場の必要なることは茲に贅言の要なきところなるが、證券取引所を有せざる臺灣にては銀行の有價證券擔保貸出が内地に比し、甚だ僅少なより見て明かなるが如く、各種有價證券就中臺灣地許株の流通著しく阻害せられ居る現状なり。

然るに臺灣に於ける株式会社の数は近年漸増の傾向に在り、殊に工業会社の續出著しきを以て、事業の發達を期し、更に新事業の企畫を容易ならしめんが爲め、證券取引所設置の要あること言を俟たざるところにして、他方米穀取引方面より見るも、不正業者を取締り本島米の取引を盛んならしむるため、現在の臺灣正米市場を米穀取引所にすべしとの輿論甚だ高く、取引所の設置は産業發展の途上に在る臺灣目下の急務と言はざる可

らず。

而して本邦政府は從來株式會社組織を以て設立せられし取引所には種々の弊害ありとし、取引所新設の場合は會員組織によるもの設立を慈愼しつつあるを以て、臺灣にては寧ろ會員組織により證券部と米穀部とを併置する取引所を設立するを可とすべく、尙之が發起具體化に當りては地許株の流通と本島米の取引の助長を主眼となすべきこと勿論なりとす。

而して全島現在の證券賣買高と正米市場の米穀取引高より推算し、會員組織による取引所の收支豫想を取てするに、諸經費を差引き年々相當巨額の積立をなし得る計算なるが、積立金の累積は財産收入の増加と相俟つて漸次取引所の賠償擔保力の充實を來たし、又委託手数料の引下げをも可能ならしむるを以て、證券米穀の取引を一層盛んならしむることとなるべし。

附記——代行會社に就て

臺灣にては現に正米市場の會員を株主とする米穀代行會社あるが、取引所新設の結果同社は當然解散せられ、證券と米穀に共通する大資本の代行機關新に必要となるべし。而て今資本金五百萬圓、四分の一拂込の會社を設立すと假定するに、一割の配當をなし尙相當の積立をなす爲めには、拂込資本に對し二割即ち二十五萬圓位の收益を擧ぐる必要あるべし。然るに資本金を六分に運用しての收益七萬五千圓、又借入金二百萬圓の運用利得(利割二分)四萬圓としても總收益は十一萬五千圓にして、經費を支辨する程度に止り會社の成立覺束なかるべしとの説あり。

扱而現在の米穀代行會社を見るに、資本金百萬圓、四十萬圓の拂込に對し一割の配當をなし居れるが、之は正米市場の清算事務を取扱ふ手数料として、市場收入の手數料の半額を市場より交附せられ居るが爲めなり。従つて新代行會社の成立に

昭和十年十一月二十二日發行(毎月一四九頁)第三三號(郵務省認可)

欄 付 欄

【 5 】

臺灣金融經濟月報無料配布先は本誌前號本誌に記載の通りにて

臺灣	官廳、學校、銀行	會社、銀行、新聞社	商店、個人	計
臺内	四五〇	一一三〇	一四八	八二八
海峽及南洋	一一三	一一三	一〇〇	四五六
海外	三七	四九	一	八六
計	六〇	五二〇	二四八	一、三六八

合計 千三百六十八部を夫々配付して居りますが年御手數左記點に對し御忌憚無く要點(不要の項採殺)を御記入願ひまして御回答々々御希望を承り、本誌内容の改善に努力したい考へてあります。何卒御氣付の點に關し應接なき御意見を賜はり度御協力を御願ひ申し上げます。

臺灣銀行調査課

氏名

住所

勤務先

臺灣金融經濟月報

(一方採擇)

今後配付の希望 有り 無し

本誌綴込作成の 有り 無し

本誌を回覧に供せらるゝや 有り 無し

左記項目に對する御利用の程度を下記各號により御記入のこと(利用〇)可成り利用(△)利用せず(×)

財界録事  
會社調  
産業資料  
物價調査

質銀調  
金融經濟統計  
研究資料

本誌に對する御希望の點

追加作成すべき統計

同記事

研究資料の内容

紙印刷費用

其他

尙本誌編輯は明年一月號より右書右様りと致し度き心算なり

◎本誌に對する御批評を乞ふ (裏面を御利用願)

印刷部編輯部電話五七四四番 昭和十年十一月二十二日發行(毎月一四九頁)第三三號(郵務省認可)

日に株式の半數以上をべし。

一種の配當機關化し、而も之に對し官て於て、正米市場對米米穀取引所に對し論、其他代行會社他ありと思ふ。

(重松稿)

産狀況

引年初經濟界立直せられ、卸商小賣商を擁し、販路擴張に本春以來卸布界の商成成績亦良しからず比間機を見るに儼な試み最初可なり好成ふ者簇出せると銀相員を招きたり。但し日基礎強固なる取引て夏期中は長期間に依り金融不圓滑卸商三店の整理發表一軒の破綻を曝露しと與へ警戒不安に驅

竹の夏物及冬物の取

多入頗る多く島内製割内外の賣行減少多競争激甚の爲利

依り衣服用として

【 4 】

取引所法規に  
しては税金免  
に會員組織の  
き、假りに十  
人 件 費  
假りに理事員  
三萬圓、使片  
ス二萬五千圓  
以内とす。

家屋償却 (十  
借 地 料 (二  
通信印刷費  
旅費交際費  
消 耗 品  
雜 費  
合 計

の支出となり、預とも三十六萬九千を其の 5/100 とせ得べし。

(七) 結 論  
なることは茲に取引所を有せざる貸出が内地に比しるが如く、各種不しく阻害せられ居然るに臺灣に於傾向に在り、殊事業の發達を期ししめんが爲め、阻俟たざるところ見るも、不正業をらしむるため、まになすべしとの業發展の途上に

切	三
手	三

臺灣銀行本店  
臺北頭取席調查課長殿

臺北市榮町

圖 書 室

【 5 】

昭和十年十一月二十五日發行(第一四一五號)第三編(經濟部認可)

は正米市場對米穀代會社干係と同様、代會社は取引所の清算事務をも取扱ふこととし、其の手續料として本論に記載せし取引所収入手数料七十萬圓の二割見當即ち十四萬圓位の交附を受くるか、或は取引所が賣買の都度會員より徵求する證據金(豫想額三百萬圓)の無利子保管運用を許され同程度の収益を擧ぐるより外なかるべく、尙交附金、資金運用の恩恵あるため、代會社の株主は

成るべく會員とし、少く共會員に株式の半數以上を所有せしむる等の問題も起るべし。

之を要するに、代會社が一種の配當機關化し居れりとて一部より非難せられ、而も之に對し官廳の直接監督權及ばざる現狀に於て、正米市場對代會社の現制度を其の證據券米穀取引所に對する代會社に適用する事は勿論、其の他代會社設立問題に就ては尙研究の餘地ありと思ふ。

(重松稿)

最近本島に於ける廣巾綿布の伸繼輸出貿易と生産狀況

(一) 本島に於ける最近綿布取引概況

(イ) 北部方面に於ける取引 本年三月頃より銀高及便利屋の取扱増加等による伸繼輸出の活況に刺戟せられたると一面本島農村の好況による需要増加見越等により綿布商は内地より多額の商品を仕入れ、販賣に努めたる結果輸出、島内尙共に賣行著しく増加を示し、資金回収も比較的順調なりしも相場漸落と競争激甚なりし爲概して前年程の収益を擧げ得ざりし模様なり。今年夏物及冬物取引概況を見るに、

(1) 夏 物 本年夏物取引は前年より早く三月頃より開始せられたるが時恰も厦門方面は品薄の折柄銀高と相俟て取引激増を示し、加ふるに從來殆んど輸出を見ざりし香港へも同地「シルヴァ・ヂュビリー」(英國皇帝陛下御即位二十五周年祝典)の需要見越により俄かに巨額の取引行はるゝ等近年になき好況を呈せり。一方島内取引は農村の好況により高級品の需要多く加ふるに博覽會開催等もあり、前年に比し二割方の賣行増加を見たる由なり。

(2) 冬 物 卸商の本年取引は例年より幾分遅延せるが夏物移入の激増により競争甚しかりし爲目下の處仕入は概して手控氣味なるも賣行は前年よ

り多少増加の見込なりと。

(ロ) 南部方面に於ける取引

年初經濟界立直り見越により夏物多量に移入せられ、卸商小賣商を問はず何れも相當の在庫品を擁し、販路擴張に直接販賣に大奮となりたるも本春以來綿布界の商情不振相場漸落歩調を辿り集金成績亦良しからず商品現金化に苦しみたり。唯此間機を見るに敏なる者香港、厦門方面に輸出を試み最初可なり好成績を収めたるも其の後之に倣ふ者簇出せると銀相場反落の影響を蒙り何れも缺損を招きたり。但し之等の多くは輸出に經驗少く且基礎強固なる取引先を有せざるものなり。斯くて夏期中は長期間に亘る降雨と風水害の被害影響等に依り金融不圓滑となり兼に東港、高雄兩地の卸商三店の整理發表あり、續いて臺南市に小賣商一軒の破綻を曝露したる等各地綿布商に一大衝動を與へ警戒不安に驅られつゝある状態にあり。

更に本年に於ける本島産綿布の夏物及冬物の取引概況を見るに次の如し。

(A) 夏 物 内地製品の移入頗る多く島内製品は其の壓迫を受け前年より二割内外の賣行減少を見たるのみならず、同業者過多競争激甚の爲利益薄し。

(1) 白木綿 生活上嗜好變遷に依り衣服用として

は需要漸減にあるは勿論本島人向葬儀用の需要も習慣の改廢により二、三割の賣行減少せるが如し。

(2) 縞木綿 農村經濟の恢復は中産階級以上に限られたる觀あり、従つて此の方面目當の賣行は一方向増加せず各店共ストックの一掃に苦しみ。

(B) 冬物 卸小賣商に破綻又は整理する向發出し、問屋筋竝に金融業者の警戒嚴重なる爲手

控へ商情を以て終始し、一方購買力依然進まざる等にて商勢不振なり。

(1) 白木綿 需要期に入りたるも商況依然不活潑にして在庫減少せず。

(2) 縞木綿 移入品少なき爲島内製品漸次進出亦々商談あり。

因に本島に於ける最近四箇年間の廣巾及小巾綿布相場を掲ぐれば次の如し。

昭和十年十二月二十日發行(毎月二四十五日發行第三種郵便物認可)

臺北市に於ける晒ジーンズ(廣巾物)相場 一反三十碼

Table with 13 columns: Year, Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec, Average. Rows for years 1936-1940.

臺南市に於ける白木綿(小巾物)相場 (一反)

Table with 13 columns: Year, Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec, Average. Rows for years 1936-1940.

(二) 綿布移入狀況

最近本島消費及仲繼輸出向として内地より移入せらるゝ綿布は小幅物漸減し、之れに反し廣巾物漸増の傾向にあり、之れ廣巾物が便利なること一般に知らるゝと共に値段割安なるによるものなるが一面製織業者より云へば廣巾物は小巾物に比し機械精巧なる爲新柄の製織に自由にして加ふるに相場の絞も多く取りに妙味ある等兩々相俟つて廣巾物に轉織せられつゝあり。

而して移入綿布は輸送費の關係上絹織物又は毛織物と混合し移入せらるゝ場合多く其の種類及移入額等正確の調査困難なるが種類は色、柄等多少の相違はあるも輸出向(輸出狀況参照)と大差な

く、移入額は今回主なる移入綿布商十五軒の手を短し、調査せる結果下記の如くにして此の外尙移入商なきにあらざるも取扱數量少なく、之等を五分乃至一割と見積れば昭和九年中は八、八一二千圓乃至九、二二二千圓の移入額となるべく、大體最近の移入は年額九百萬圓前後と推定せらる。

而して税關發表の貿易表によれば昭和九年中綿織物及絹織物の移入一千七百萬圓あり、此の中幾何の綿織物を含むや判然せざるも、少くとも此の中には所謂綿布に屬せざる柄物反物等を含むは勿論絹織物のみならず毛織物をも含むものゝ如し。

因に島内各銀行取扱の對内地爲替取扱高より見れば、呉服其の他身邊裝飾品等を含むと思はるゝ呉服商(綿布商を含む)の送金爲替、被仕向荷爲

替、代金取立手形等の集計額は昭和八年中二五、九八九千圓、同九年中二八、三四四千圓、十年一月以降八月迄の累計一九、一〇六千圓に上れり。

主要綿布商の廣巾及小巾綿布移入高

Table with 4 columns: Year, Broad Cloth (Quantity), Small Cloth (Quantity), Broad Cloth (Value), Small Cloth (Value). Rows for 1937 and 1938.

同 九年 34,503 2,398 8,050,164 342,518  
同 十年六月迄 22,543 1,471 5,099,969 199,159

備考 廣巾物は普通一箇三十反(一反四十碼物)又は四十反(一反三十碼物)入のもの多く、小巾物は普通一箇百二十反(一反十二碼物)入のもの多し。本表は下記純綿布商以外の内地人向呉服商の直接移入する柄物反物類を含まず。

尙ほ臺北彰化兩市に於ける主なる綿布移入商を示せば次の如し。

Table with 7 columns: Name, Location, Capital, Paid-up Capital, Representative, Establishment. Lists various textile companies in Taipei and彰化.

(三) 綿布輸出狀況

最近本島より主として廈門、福州、汕頭、香港(本年に入り激増)等へ仲繼輸出せらるゝ綿布は白木綿小巾物(一尺一寸乃至一尺二寸巾)及中巾物(一尺五寸巾)を除き他は廣巾物にして其の種類は大別して晒金巾、晒シーチング、縞木綿、綾木綿、

色木綿、綿縹子、ポプリン等其の主なるものなるが就中晒金巾、五枚朱子(綿縹子の一部)四ツ綾及仁斯(綾木綿の一部)ポプリン(夏物)等代表的のものにして嗜好の變遷尠く輸出比較的多し。

今最近三箇年間に於ける本島廣巾綿布の仲繼輸出高を示せば下記の如し。

Table with 8 columns: Year, Broad Cloth (Quantity), Broad Cloth (Value), Small Cloth (Quantity), Small Cloth (Value). Rows for 1937, 1938, 1939, and 1940 (up to June).

	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年 六月迄	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年 六月迄
綿 木 綿	210,382	212,854	533,998	432,369	26,583	41,380	97,751	78,061
綾 木 綿	816,194	144,230	334,433	229,216	119,952	32,514	67,028	33,351
色 木 綿	329,550	200,732	928,709	601,642	44,924	40,225	190,285	97,788
綿 絹 子	1,443,103	364,879	695,448	231,439	279,768	90,276	172,375	55,370
天 竺 布	216,742	22,296	19,429	5,620	31,336	2,887	3,420	1,196
更 紗	27,840	4,550	9,150	90,900	3,344	777	1,205	9,616
小 糸 織	52,590	16,389	29,068	13,519	8,937	4,204	6,935	3,720
ボ プ リ ン	20,400	48,663	455,124	3,541,206	2,086	9,627	95,608	634,397
綿 帆 布	32,300	19,902	370	5,572	8,939	6,044	159	1,686
其 他 の 綿 織 物	504,410	296,100	1,119,383	1,450,242	86,846	79,547	264,414	243,721
計	6,486,486	1,530,745	4,783,400	7,680,557	1,036,184	344,640	1,018,586	1,342,590

註 本表には昭和七年色木綿二〇、一〇〇碼、價額八、八七〇圓、昭和八年天竺布六四四碼、價額二六圓の本島産品の輸出を含む。

即ち輸出は昭和七年の六、四八六千碼、價額一、〇三六千圓より昭和八年には一、五三一千碼、價額三四五千圓に激減せり。之れ主として支那に於ける數次の關稅引上と排日の影響に因るものなるが其の後排日の緩和支那共産黨の衰弱により内地需要の増進、便利屋の増加等により昭和九年に至り四、七八三千碼、價額一、〇一九千圓に恢復し、尙本昭和十年に入りては便利屋の活躍著しく且銀高及香港に於ける「シルヴァ・ヂュピリー」の需要見越（主としてボプリン）等により取引旺盛を極め、既に上半期中に於て輸出高七、六八一千碼、價額一、三四三千圓に上り前年一箇年中の取引額を凌駕せる盛況振りを示せり。

(四) 綿布生産状況

本島に於て工場を設け力織機を用ひて廣巾物を製織せるは從來臺灣織布株式會社臺南工場のみなりしが最近需要喚起に伴ひ其の他の織布工場に於ても漸次廣巾物に轉織し、其の生産は最近二、三箇年間に於て殆んど倍額に達せり。現在に於ける織布工場は會社組織によるもの二工場、個人經營によるもの六工場、合計八工場あり、大部分は臺南市に在り。就中臺灣織布會社規模最も大にして力織機三百十一臺（廣巾用八三臺、小巾用二二八臺）を有し全體の過半を占む。

今本島に於ける織布工場を列記すれば次の如し。

本島に於ける織布工場

工場名稱	工場所在地	工場代表者	職工數 (昭和九年末現在)	事業開始
臺灣織物株式會社	臺北州臺北市大龍峒	櫻井貞次郎	9 102 111	大正 9 3
義元織布商會	同 宮前町	謝 炭	— 24 24	昭和 7 1
勝泰商行紡織工場	臺中州大甲郡沙鹿庄	李 鄉 雲	3 27 30	大正 15 9
臺灣織布株式會社 臺南工場	臺南州臺南市鹽埕町	小原富太郎	39 132 171	同 6 10
新復興織布工場	同 福住町	侯 雨 利	4 24 28	昭和 8 6
協昌織布工場	同	陳 賜	— 29 29	同 2 1
永義和織布工場	同 田町	蔡 洛	3 29 32	同 2 11
木戸織布工場	同 入船町	木 戸 慶 藏	6 39 45	大正 13 1

昭和十年十二月二十日發行 毎月一四十五日發行 第三種郵便物認可

是等工場の内、臺灣織布會社及永義和、新復興勝泰等の諸織布工場は主として廣巾綿布及小巾白木綿、其の他織布工場は主として白木綿又は白布（普通白木綿と異り更に巾狭く専ら葬儀に用ひらる）等の小巾物を製織し、島内向として販賣せり。輸出向は昭和七、八年頃色木綿及天竺布の少量取りありたるも最近皆無の状態なり。今最近三箇年間に於ける本島各織布工場の廣巾及小巾綿布生産高を示せば下記の如し。

本島に於ける各織布工場綿布生産高

	廣巾綿布		小巾白木綿	
	數量(碼)	價額(圓)	數量(碼)	價額(圓)
昭和七年	1,120,020	171,694	7,411,784	445,260
同 八年	1,620,580	271,649	7,651,028	489,290
同 九年	1,340,685	316,529	7,713,160	527,234
同 十年六月迄	644,040	115,691	3,035,980	213,463

備考 上表の外調査未了の小巾白布織布工場二及綿布綿大巾白木綿(小巾)織布工場一あるも製造數量少なく大勢上影響なかるべし。

而して上記織布工場の原糸は主として大阪方面より移入せらるゝが昨年中の織絲移入高六三三三

本島切乾薯と全國新式燒酎聯盟會

燒酎原料としての切乾薯 本島より主に内地燒酎原料として(主稅局の統計によれば昭和七酒造年度の燒酎製造高五〇九千石中甘藷醴を原料とするもの二三六千石、甘藷醴及其の他の原料を混合して製造せるもの一〇千石あり)移出せらるゝ切乾薯は收穫の多寡、相場の高低如何によつて年により著しく相違あるも昭和九年の移出高は六三、七七〇千石、價額一、八七六千圓にして本島移出重要品の一に數へられつゝあり。

移出商は臺南、高雄等主産地方面に介在し、毎年四月頃より取引開始せられ九、十、十一月を以て旺盛期とす。今主なる移出商及一箇年の取引高を示せば次の如し。

圓にして毎年綿絲總移入高の四割見當を占む。因に臺灣織布會社は最近臺南州下に於ける棉花の栽培著しく増加せるに鑑み新に棉花部を設置し操綿機十六臺を据付け(一日操綿能力三千斤)操綿事業を經營し、製品を内地紡績會社へ販賣すること決定せるが既に工場新築落成目下機械据付中の由。

以上の如く本年は南部に於ける綿布賣行減退と内地製品の移入過多により本島織布工場(南部)の取引にも其の影響を與へ、販賣高減少となり相當の「ストック」を擁し剩さへ相場漸落により業績概して思はしからざる模様なりしも十月に至り本格的な需要期に入ると共に綿絲總移入高の爲製品先高見越となりたるのみならず不良綿布商の整理は同業者間の警戒自重を促さしめ無理なる競争は之れにより緩和せらる可く金融圓滑となるに於ては農村好況のことにもあり、綿布商の取引増加を豫想せらるゝと共に織布工場の取引亦相當活況を呈するものと期待せらる。(昭和十年十月高杉行員稿)

移出商	所在地	一箇年 取引高 千円	主要仕向先
合資會社三河商行 臺南支店	臺南市港町	12,815	{ 檳榔、門司、 大阪、鹿兒 島、神戶、宇 品、小樽
杉原商店	高雄市港町	10,716	{ 檳榔、門司、 大阪、長崎、 神戶
三井物產高雄支店	高雄市壽町	4,300	{ 檳榔、門司、 大阪、神戶、 宇品
三菱商事高雄支店	高雄市洲江町	2,224	{ 檳榔、門司、 大阪、神戶、 小樽
株式會社永豐商店	高雄市港町	1,070	{ 門司、大阪
合資會社山平商店	高雄市港町	1,092	{ 大阪

備考 上記各移出商の取引高は昭和八年中の移出高にして、島内新聞に發表せられたる數字なり、然るに商機の都合の爲か將た何故か昭和九年及同十年は同業者の申合せにより發表せざる由なるが甚だ遺憾とする處なり、其の取引割合は昭和八年中と大違なきものと思はる。



**全國新式燒酎聯盟會の内容** 同會は事務所を大阪市に置き、昭和三年十一月大蔵省當局の支持により混亂せる燒酎界匡濟の爲全國新式燒酎の生産販賣統制を圖る目的を以て會員組織により設立せられたるものにして現在に於ては殆んど全國の同業者全部を網羅し、其の生産數量亦全國新式燒酎の九割八分を占む、同會の加入會員下記の如くにして昭和十造年度以降四箇年の生産協定によれば製造高大約年四十萬石にして違約金一石に付拾圓、保證金は造石高五萬石以上一萬圓、五萬石以下三千圓、一萬石以下千圓と定めらる。尙製造高制當を見るに福岡市大日本酒類醸造及京都府寶酒造の兩社は十萬石内外之に強ぐは旭川市の合同酒造、大阪市の萬歳酒造、長崎市の旭酒造會社等に各社二、三萬石見當其の他は一萬石乃至三千石なり。(因に昭和七造年度に於ける燒酎製造免許場數は三千石以上一、五千石以上四、一萬石以上一五なり)

全國新式燒酎聯盟會加入員

名 稱	所在地	代表者又ハ店主
萬歳酒造株式會社	大阪市	辰馬卯一郎
彌津酒造株式會社	同	阿部喜兵衛
露神谷傳兵衛本店	東京市	神谷傳兵衛
河合欣三郎商店	同	河合欣三郎
大和釀造株式會社	同	小西新右衛門
株式會社菊美屋	同	縣 權五郎
株式會社第一屋	兵庫縣	阿部喜兵衛
江井ヶ島酒造株式會社	同	ト部豊太郎
明石酒類醸造株式會社	同	米澤彌次郎
丸善會谷合名會社	函館市	菅谷カノ
合同酒造株式會社	旭川市	野口喜一郎
寶酒造株式會社	京都市	四方卯三郎
東洋釀造株式會社	静岡縣	藤田信吾
宮崎山太郎商店	三重縣	宮崎山太郎
中國酒類醸造合資會社	廣島縣	白井市郎

日本酒造株式會社 山口縣 四方卯三郎  
 大日本酒類醸造株式會社 福岡市 森 英 示  
 旭酒精株式會社 長崎市 原 萬一郎  
 本坊合名會社 伊兒島縣 本坊淺吉  
 札幌燒酎株式會社 札幌郡 笠原定藏

**切乾薯と高粱、玉蜀黍の關係** 前陳の如く切乾薯は燒酎及葡萄酒等の製造原料として内地へ移出せらるゝものなれども此の種原料としては外に滿洲の高梁、南洋の玉蜀黍あり、此の三者は從來年により、産額、價額、銀相場如何により取引甚しく一方に偏し、切乾薯の如きも過去に於ては年中全く一斤の移出も行はれざることあるなど他の一般商品に比すれば頗る奇異なる現象を呈せることあり、幸ひ最近銀相場、關稅等の關係により移出順調にして下記の如く、昭和七年の二百四十萬斤より八年には一躍三千二百萬斤に、九年には更に倍加して六千三百萬斤、價額百八十萬圓に上れり。

元來切乾薯は本島中南部に於ける農漁民の主要食料品及澱粉原料に使用せらるゝを以て甘藷豐作にして餘剰を生ずれば之を賣却するも不作にして殊に雨期及霜害の關係等にて製品良好ならざる場合は供給數量も少なく自然値段割高なれば移出商の出動を見ざる有様なり。然れば移出不振なりとて之に依つて農民に打撃を與ふるものに非ざれども豐作なれば必ず相當の移出行はるゝものにして、取扱商の思惑によるの外、製造過多にて滞貨を生じ、處分に窮するが如きこと殆んど之を見ず。見方に依りては弾力性に富める産業と云ふを得べし。

然れども本取引をして益々隆盛に赴かしめんとすれば常に一定の品質と一定限度の産額を保持し、外敵の爲地盤を侵蝕せられざる様努むるの要あるべし。(昭和十年十一月高杉行員稿)

昭和十年十一月二十日發行(毎月一四十五日發行)第三編 經濟月報

最近三箇年間に於ける切乾薯移出高

仕 向 先	數 量 (斤)				價 額 (圓)			
	昭和七年	同八年	同九年	同十年	昭和七年	同八年	同九年	同十年
小樽	—	920,000	1,390,000	580,000	—	29,140	41,680	16,400
函館	—	570,000	600,000	300,000	—	18,575	17,110	8,100
東京	—	1,137,000	3,974,400	5,337,760	—	37,738	109,436	152,488
横濱	985,920	10,181,740	16,758,000	6,260,160	29,327	326,526	498,379	189,474
名古屋	—	50,000	204,000	492,960	—	1,675	6,320	13,630
大阪	504,931	4,593,860	3,948,160	3,866,240	16,007	157,782	110,895	111,009
神戸	137,674	3,938,080	3,522,000	4,630,100	3,966	120,811	107,236	130,453
広島	—	1,550,000	—	—	—	49,300	—	—
門司	813,040	4,530,360	10,540,000	4,205,040	27,006	150,803	300,488	115,319
長崎	49,842	1,500,000	1,000,000	951,200	1,496	44,500	30,000	25,941
鹿児島	—	1,700,000	4,162,960	1,000,000	—	58,000	126,417	28,500
沖繩	—	80,000	300,000	—	—	3,280	8,650	—
朝鮮	—	752,160	13,980,080	6,054,000	—	28,667	409,980	169,286
其他	—	600,000	3,390,000	200,000	—	20,100	109,350	5,500
計	2,491,407	32,103,200	63,769,600	33,877,460	77,802	1,046,897	1,875,941	966,100

最近三箇年間に於ける切乾薯(産地各驛渡)相場 (百斤)

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
昭和七年	1.30	1.30	1.30	1.30	2.50	3.30	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.50
同八年	3.00	3.00	2.60	3.05	3.20	3.60	3.75	4.00	3.65	3.65	3.60	3.60	3.39
同九年	3.60	3.60	2.20	2.10	2.10	2.15	2.35	2.70	3.70	3.70	2.00	2.90	2.76
同十年	2.75	2.75	2.75	2.75	2.70	2.70	3.15	3.85	3.50	3.50	—	—	3.04

鱈の肝臓取引に就いて

上記に關しては、昭和十年九月號本誌に掲載したるが、更に照會中の在籍ギヤランティエ・トラスト・カムパニーより十月五日付下記の回答を得たり。

拜啓陳者九月十七日付貴翰御來示により、當地に於ける藥劑試驗所及主なる製藥會社に就き取調候處、商業的に經營の鱈肝油製造に關しては、何等識る所無之候得共、當地に日本産鱈の肝臓を輸入し「北歐魚肝臓濃溶液」なる藥劑製造に使用せりと傳へらるゝ一會社有之、同社が暹米利加東部に於ける唯一の魚類肝臓輸入商なる由に御座候。因つて右に關し更に數箇所の大藥劑會社及藥種商關係の雜誌社に照會致候處、同藥劑は當地方には全く知られ居らず、且如何なる藥劑表にも掲載され居らざる旨の回答に接し申候。

前記藥劑試驗所に於ては設備の都合上鱈、オ鮮、ニューヂーランド産鱈の肝臓を、ヰイタミンA、D抽出材料として使用致居候。尤も右以外のものからも抽出し得る事は、國內各試驗所に於て實驗され居る所に有之、其の結果鮮よりも優良なるもの多々存する事を證明致居候。

最近の暹米利加政府内外通商局發表によれば、カジキの肝臓がヰイタミン抽出材料として最良なる旨指摘致居候。又中西部所在の或る試驗所の公

表する所に據れば、鱈科を含む鱈形類魚族の肝臓(鱈は鱈科に屬す)實驗の結果、抽出ビタミンが量質共に相違せる點有之候へ共、鱈に比すれば百倍乃至四百倍の抽出能力を有する由に御座候。

然れ共鱈の肝臓がビタミンAとDを最も理想的に結合せられ居るものに有之(Aは發育促進劑、Dは佝僂病豫防劑)鱈以外のもの使用に際しては、所要ビタミン含有量を平均せしむる爲めに、屢々製劑を混合する必要生ずべく候。例へばオ鮮の肝臓は、AがDより豊富、ニューゼーランド産鱈はDがAより多量に含有致居候。或製造業者は各種の魚類肝臓混合物を販賣致居候。最近フィラデルフィアの John Wyoth 兄弟商會が「天然ビタミン油」と稱する新製品を賣出し申候。凡て是等肝臓製品の製法は絶對秘密と相成居候に付、同品の成分に關しては知る術無之候得共、其の名稱より推察して各種肝臓の混合製品と解する者有之候。魚類の肝臓製品は極度に濃縮されたる油状のものとして販賣され居り、且製法は前述の通り絶對秘密と相成居候に付生産費を確むる事は殆んど不可能に御座候。

魚類の肝臓よりホルモン抽出の件に關しては、何方よりも聞知致さず候。實際肝臓よりホルモン

抽出の問題は、未だ試驗所に於ける實驗の初期に屬し居り、従つて魚類肝臓はビタミンA、D含有により、全然小供の佝僂病豫防並に榮養劑としてのみ使用せられ居る實情に御座候。

悪性貧血症の治療に際しては、哺乳動物の肝臓を使用致居候。同肝臓内には血液細胞組織に作用する或種の化學的物質の含有せるを發見、爾來各種の特許肝油が悪性貧血症治療に用ひられ居候得共、其の本體はホルモンなるべしと思せらるゝのみにて、未だホルモンの遊離には成功せざる由に御座候。

薬用としての魚類肝臓利用に關する著述は、頗る廣範圍に亘るもの有之且各方面に照會致候得共、未だ回答に接せざるもの有之候間、近く回答を得次第貴方に御通知可申上候。此の種論説は絶えず雑誌「科學」及「米國藥劑協會々報」に發表致され居候。次回の報告は貴方に興味有るべきものたる事と確信罷在候。

鱈の肝油製造は西海岸に於て廣く行はるゝ可能性有之候間、桑港に御照會相成候は、西部方面に於ける魚類肝臓製品關係市況の資料を入手し得らるゝ事と被存申候。敬具 (内藤行員譯)

昭和十年十一月二十日發行 毎月一回十五日發行 第三種郵便物認可

### キヤツサバ栽培に就いて

#### 一、「キヤツサバ」の植物學的概要

原産地	ブラジル
學名	Manihot Utilissima, Pohl.
英名	Cassava
和名	イモノキ
土名	樹薯

「キヤツサバ」は赤道を中心として南北緯三〇度の間に生育する熱帯植物にして高さ二〜三米を普通とし、多年生の木質様灌木にして其の肥大せる

根塊は長さ三〇〜五〇糎に達し多量の澱粉を含有す。

莖は最初一本の主莖が直立し八〇〜一五〇糎の邊にて傾斜せる水平射出の三分枝を生じ更に六〇〜一〇〇糎の邊にて前同様の三分枝を生じ斯くて齡を加ふる毎に同様の分枝法によりて伸長生育す。

莖は脆弱にして白色コルク質に被はれ、初め緑色を帯び後に淡灰色に變ず。成熟せるものは莖徑

二〜三糎に達す。品種は原産地に於て既に五〇種以上あり。自然、人工交配に依りて育成せられたる品種は無數にして各地に分布せり。

現在臺灣新興産業株式會社に於いて栽培せる品種は次の十數種なり。

實際品種名	
第一號	Manihot Utilissima motor Md. S. P. P. Icail 3006
第二號	Alpin Mangi
第三號	Motor Md. S. P. P. Icail 2539
第四號	3839
第五號	3619
第六號	Motor Md. Sao Sedso Saeto
第七號	Alpin Valenca
第八號	Motor Md. S. P. P. Icail 2159
第九號	239
第十號	Manihot Utilissima motor Md. 1964
第十一號	3718
第十二號	3795
第十三號	2152
第十四號	2536
第十五號	—

混合(金四號)系統不明  
Md. S. P. P. は Manihoca Sao Pedro Preto の略主として栽培せるは第五號、第十二號、第十五號、混合、金子四號の數種なり。

#### 二、「キヤツサバ」の栽培

年平均二〇度(C)を中心として甚しく温度の高低の差を生ぜざる地帯を栽培適地とし、生育期に於て高温多濕なるを好むと雖も過濕は根を腐敗せしむ。即ち四、五日間の水の停滯は薯を腐敗せしむ。

乾燥に對しては抵抗大にして十分發根生長せるものは乾燥の爲め死すること殆んど無く低温により葉片は落下するも莖は枯死することなし。

暴風雨に對する抵抗力は單獨に數本宛生育せる場合は、分枝せる所より容易に莖を吹き折らるゝ

處あるも、圃場に栽培せる場合は相互に支柱となりて容易に折損することなし。されど風速二〇米以上の場合は三〜四割の減收は免れざる可し。

土壤は如何なる土壤にても生育するも輕鬆彫軟なる砂質壤土又は砂土は收量最も大なり。重粘なる地に於ては收量少き上に收穫に勞力を要すること大なり。余り肥沃なる地は莖葉のみ繁茂して根塊肥大せず收量少し。

日照は又常に必要にして、陰影地は莖葉纖弱にして根塊小なり。

(イ) 根塊は地中三〇〜四〇糎以下の深土に於ては形成せられず且水の停滯を忌む作物故深耕の要を認めず、されど土壤を細碎する事を要す。又地形に應じては排水溝を設くるを要す。畦は通常高さ二〇糎、巾三〇〜四〇糎、畦と畦との巾は九〇〜一二〇糎とす。

(ロ) 「キヤツサバ」栽培に於ては苗の良否は殆んど生産量の大半を支配するを以て特に考慮を拂はざる可からず。苗の長さ、大いさ、母本の老幼によりて生育に大差を生ず。苗の長さは二五〜三〇糎を可とす。

直立せる主莖より採りたる苗最も良好にして第二分枝以後の分は不良なり。又母本は十箇月前後生育せるを良しとするも母本一本より三、四本採苗し得るに過ぎず。二〇箇月以上の母本よりは一株より二〇本までは良苗を採苗し得。苗は細きものよりも太きものの方發芽良好なり。

(ハ) 植付時期は何時にも良ろしきも、乾燥期に於ては降雨直後にして相當の雨濕あるを要す。南部臺灣に於ては三月〜九月を適期とす。平地肥沃にして「タイワンコホロギ」の被害なき所にては三月降雨後早熟種を植付け其の年の十二月より收穫するを可とす。「ク

イワンコホロギ」の被害甚しき地、又は瘠白地、肥沃なる傾斜地にては六、七、八月植付け翌年十二月より收穫、傾斜地にして瘠白なる所は四、五、六月頃植付け翌年十二月より收穫するを可とす。

株間は六〇〜一〇〇種を可とす。

植付方法は雨期に於ては苗の全長の1/2以内、乾燥期に於ては2/3を土中に1/3を地上に表はす様に挿苗す。挿苗法に直立挿、平挿、斜挿、倒挿あるも直立挿最も生産多し。

「キャツサバ」は發育不揃となれば大苗は小苗を壓倒する爲に根塊の大いさに大差を生ず。故に發芽直後補植を行ふこと必要なり。されど補植又は株の移植は他作物の如く有效ならず缺損の状態によりてはむしろ植替するを有利とす。

(ニ) 除草は生育初期に於て特に必要なり。「キャツサバ」の草丈二、三尺ともなれば既に雑草は悉く「キャツサバ」の杂草となりて枯死するもの多し。草丈一、二尺となる迄に一、二回の中耕を行ふは土壤を膨脹ならしめて根塊を太らしむるに與つて力あり。培土は特別の場合を除き行はざるをよしとす。薯の腐敗を招き且薯の膨大を妨ぐるを以てなり。

(ホ) 肥料は開墾直後の肥沃地を除き甲當察素一〇〜一五貫、磷酸一〇貫、加里一五〜二〇貫を標準とし硫酸アンモニア、過磷酸石灰、硫酸加里を用ひ堆肥厩肥を加用す。

有機質肥料を基肥とし礦物質肥料は追肥とするを可とす。通常二或は三回に分施す。

(ハ) 收穫は葉片の剝落する順序に従つて十二月より開始す。葉片の剝落は生育停止の時期にして澱粉含有量も亦最高に近し。通常終了は三月とす。生育月數少くして收穫量及び澱粉

含量不良なれば次年度の收穫期まで延期するを可とす。斯くする事に依りて兩者共著しく增收を來す。

收穫の方法は地上莖を地上六〇種位の所に伐採して其の地上莖は畦に積み重ね置く、伐採終れば畝にて根元の土を薄く削り残したる地上莖を手にて搖動すれば根塊のある方向に龜裂を生ずるを以て之にそひて掘り起し、地上莖を持して抽出し、其の儘暫時放置して後附着せる土を振落し、地上莖と共に根塊の木質部を除去す。之原料薯なり。

(ト) 生産高は品種、生育期間、土質、施肥量及栽培方法によりて異なるものにして一株の重さも一、二斤より七、八拾斤に達するものありて一概に決定する能はず。瓜哇竝に臺灣に於ける收穫實績を示せば次の如し。

Table with 2 columns: Location (瓜哇, ケデリー州, コボ農學校, ボイデンゾルフ) and Yield (23,000斤~45,000斤, 45,000斤, 110,000斤, 180,000斤)

Table with 2 columns: Location (平地, 傾斜地) and Yield (45,000斤, 25,000斤, 30,000斤, 18,000斤)

將來臺灣に於ても優良種を平地に六、七月植すれば甲當 110,000 斤は得べく傾斜地にては 40,000 斤〜150,000 斤は得らるべし。

(チ) 地力の維持、病虫害の發生豫防の爲め「キャツサバ」栽培に當りても適當なる輪換作をとること必要なり。今其の普通なるものを擧ぐれば次の如し。

Table with 4 columns: Year (第一年, 第二年, 第三年, 第四年) and Crop (大豆, キャツサバ, キャツサバ, キャツサバ)

昭和十年十一月二十日發行(毎月一四十五日發行)第三種郵便物認可

キャツサバ根に類似する澱粉含有作物と澱粉含有量及少留を比較すれば次の如し。

Table with 4 columns: Raw material name (キャツサバ, アロルート, 馬鈴薯, 甘藷), Starch content (%), Yield (kg), and Starch yield (%)

キャツサバ根は主として生根を原料として澱粉を製造するか、又は乾根として醸造原料として焼酎製造及酒精醸造、水飴製造に用ひ、澱粉は工業用としては織物又は製糸用の糊、石鹼、白粉、齒磨粉、藥劑の増量材、カラメルとして醬油、ソース、黒麥酒、酒類の着色料、藥用として撒布粉劑、糊泥糊帶等に用ふ。食用としてはビスケット等製菓原料、蒲鉾、凍豆腐等に用ふ。

(昭和十年十月鹽水港製糖會社調査・臺南支店報告)

昭和十年十一月二十日發行(毎月一四十五日發行)第三種郵便物認可

Table with 2 columns: Example (第二例, 第三例) and Harvest period (キャツサバ, 大豆)

三、キャツサバ根の化學的成分並に根の用途

Table with 4 columns: Component (蛋白質, 灰分, 脂肪, 粗纖維, 澱粉用化合物, 糖酸, 石灰分, 水分) and values for three samples

臺灣金融經濟月報配付先 (二)

- List of distribution partners including banks (三井銀行, 三菱銀行, etc.), research institutes (東京手形交換所, etc.), and educational institutions (拓殖大學, etc.)

臺灣金融經濟月報

豐年製油株式會社  
 筒井精米株式會社  
 松本米穀肥料會社  
 大日本人造肥料株式會社  
 山一證券株式會社調查部  
 大成火災海上保險株式會社  
 三井信託株式會社  
 淺野セメント會社秘書係長  
 内外食品會社  
 加商株式會社  
 大日本麥酒株式會社  
 臺灣青果株式會社  
 森永製菓株式會社  
 鈴木洋酒店  
 逸見山陽堂  
 角田政吉商店  
 米津豐七商店  
 遠利商店  
 阿部長兵衛商店  
 東京森卯商店  
 瀧田商店  
 大倉洋紙店  
 國分商店  
 平井三三商店  
 瀧田商店  
 岩瀨小三郎商店  
 田中商店  
 室濤次郎商店  
 小川安次郎商店  
 下村龍次郎商店  
 梅原商店  
 瀧田精米所  
 谷古守幸松商店  
 吉田保藏商店  
 馬場保次郎商店  
 寺島徳太郎商店  
 中島半五郎商店  
 大塚商店  
 米津豐七神田支店  
 杉原榮商店  
 山崎政富商店  
 齊藤安司商店  
 岡代增五郎商店  
 岩崎清七商店  
 木村徳兵衛商店  
 磯野銀樂商店  
 山崎種二商店  
 加藤山太郎商店  
 淺谷商店  
 桐山徳三商店

山崎繁次郎商店  
 鈴木商店  
 宇田川謙二商店  
 北洋商會  
 山田新之助商店  
 山口要商店  
 鷹集精米所  
 關根益子商店  
 米津豐七新宿支店  
 池田龍藏  
 村田武信  
 高橋興四郎  
 印藤金之助  
 澤田澤吉

**大 阪**  
 造幣局  
 大阪府内務部商務課  
 〃 商工課  
 大阪市役所農業課  
 〃 商工課  
 〃 漁業課  
 朝鮮銀行大阪支店  
 日本銀行大阪支店  
 第一銀行大阪支店  
 三井銀行大阪支店  
 川崎第百銀行大阪支店  
 安田銀行大阪支店  
 橫濱正金銀行大阪支店  
 第一百四十七銀行大阪支店  
 十五銀行大阪支店  
 名古屋銀行大阪支店  
 日本興業銀行大阪支店  
 愛知銀行大阪支店  
 神戸岡崎銀行大阪支店  
 第三銀行大阪支店  
 三菱銀行大阪支店  
 〃 西長洲支店  
 住友銀行本店  
 三和銀行本店  
 〃 瓦町支店  
 野村銀行本店  
 〃 調査課  
 第十八銀行  
 日本信託銀行本店  
 大阪朝日新聞社  
 大阪毎日新聞社經濟調査係  
 新聞聯合社大阪支社  
 日本電報通信社大阪支局  
 產業振興研究會  
 大阪商工會議所  
 大阪株式取引所

大阪府立貿易館  
 商業興信所  
 帝國興信所  
 大阪商科大學經濟研究所  
 〃 銀行業務研究室  
 大阪府立圖書館  
 大阪銀行集會所編輯部  
 大阪手形交換所  
 大阪屋敷店調查部  
 野村證券株式會社調查部  
 藤本B、D、證券株式會社調查部  
 野村合名會社調查部  
 大阪商事株式會社調查部  
 關西信託會社調查部  
 伊藤忠商社株式會社  
 大阪商船會社營業所遠洋課調查係  
 藤本合資會社  
 大阪海運物會社  
 三井物產株式會社大阪支店  
 三菱商事株式會社大阪支店  
 臺灣皮革株式會社大阪出張所伊藤武二  
 鹽水港製糖株式會社  
 又一株式會社  
 東光株式會社  
 瀧定合名會社  
 岡谷合資會社  
 日本造船會社  
 荒木合名會社  
 豐島商店  
 大徳信商店  
 八木商店  
 大倉洋紙店  
 祭原商店  
 大同洋雜店  
 松下商店  
 盛道商行  
 服部商店  
 中井商店  
 西村商店  
 安宅商會  
 萬谷商店  
 福阜洋行  
 山下商店  
 河原商行  
 櫻井商店  
 陸石精米所  
 梶中商店  
 味の素鈴木商店  
 安住大藥房  
 植松材木店  
 昭南商會

昭和十一年十一月二十日發行 每月一四十五日發行第三種郵便物認可

臺灣金融經濟月報

昭和十一年十一月二十日發行 每月一四十五日發行第三種郵便物認可

山本瀧太郎  
 曾根勝次郎  
 吉川麻太郎  
 松本鐵治郎  
 新井健治  
 中野岩次郎  
 庄野嘉久藏  
 山西定吉  
 井上長藏  
 白井善次郎  
 筒井定之助  
 山山芳太郎  
 稻木善藏  
 岡崎兵治  
 高橋興四郎  
 宮垣山兵衛

**兵 庫**  
 神戸税關  
 兵庫縣廳商工課  
 神戸市役所商工課  
 神戸稅務署  
 川崎第百銀行神戸支店  
 朝鮮銀行神戸支店  
 日本銀行神戸支店  
 三和銀行神戸支店  
 三井銀行神戸支店  
 安田銀行神戸支店  
 第一銀行神戸支店  
 野村銀行神戸支店  
 橫濱正金銀行神戸支店  
 三十八銀行神戸支店  
 十五銀行神戸支店  
 住友銀行神戸支店  
 三菱銀行神戸支店  
 日本興業銀行神戸支店  
 兵庫縣廳工務課  
 神戸岡崎銀行本店  
 灘商會銀行本店  
 灘商會銀行本店  
 西ノ宮銀行本店  
 但馬合同銀行本店  
 神戸銀行集會所  
 神戸商工會議所  
 神戸海運物貿易同業組合  
 商業興信所神戸支店  
 神戸商業大學圖書館  
 〃 商業研究所  
 神戸圖書館  
 石原連業連合會社梅垣長二  
 大同貿易株式會社

大同貿易株式會社宮崎部  
 三井物產株式會社神戸支店  
 三菱商事株式會社神戸支店  
 藤本 B、D、證券株式會社  
 神戸中央青果株式會社  
 日商株式會社  
 飯島合資會社  
 上田合名會社  
 裕興商行  
 川泰商行  
 古屋商店  
 海邊商店  
 大德洋行  
 泰益洋行  
 加藤商會  
 兼松商店  
 神港製糖所  
 泰安公司  
 怡利公司  
 振記公司  
 伊藤松之助

**橫 濱**  
 神奈川縣廳統計課  
 橫濱市役所統計課  
 〃 勸業課  
 橫濱正金銀行本店  
 〃 調査課  
 第一銀行橫濱支店  
 橫濱商工會議所  
 橫濱高等商業學校  
 橫濱商業專門學校  
 橫濱市圖書館事務所  
 橫濱銀行集會所  
 橫濱貿易協會  
 古屋商店  
 野崎商店  
 望月商店

**京 都**  
 第一銀行京都支店  
 住友銀行京都支店  
 川崎第百銀行京都支店  
 十五銀行京都支店  
 野村銀行京都支店  
 安田銀行京都支店  
 京都商工會議所  
 京都帝國大學經濟學部學生會  
 〃 〃 助教松岡孝見  
 石常商店  
**名 古 屋**  
 名古屋銀行本店

愛知銀行本店  
 〃 業務第一係田村儀之  
 明治銀行本店  
 明治銀行頭取江崎眞澄  
 住友銀行名古屋支店  
 第一銀行名古屋支店  
 三井銀行名古屋支店  
 川崎第百銀行名古屋支店  
 安田銀行名古屋支店  
 名古屋商工會議所  
 名古屋新聞社經濟部  
 名古屋高等商業學校產案調査室  
 名古屋輸出毛織工業組合

**靜 岡**  
 靜岡銀行本店  
 三十五銀行本店  
 駿河銀行本店  
**滋 賀**  
 濱根高等商業學校調査課  
**三 重**  
 第百五銀行本店  
**和 歌 山**  
 和歌山高等商業學校圖書館  
 〃 調査課  
**埼 玉**  
 宇都宮高等農林學校農政經濟研  
 究室  
**岐 阜**  
 十六銀行本店  
 〃 多治見支店  
**長 野**  
 八十二銀行本店  
**金 澤**  
 加能合同銀行本店  
**富 山**  
 十二銀行調査課  
 高岡高等商業學校調査課  
 高岡商業學校大窪恒範  
 高岡商業學校圖書館  
**仙 臺**  
 七十七銀行本店  
 東洋新聞社經濟部  
 東北帝國大學附屬圖書館  
**北 海 道**  
 函館、函館水産販賣株式會社  
 小樽、小樽市役所勸業課  
 〃 北海道銀行本店  
 〃 小樽商工會議所  
 〃 小樽高等商業學校研究室  
 札幌、北海道銀行本店  
 〃 〃 調査課

札幌、北海道信用購買販賣組合  
 〃 北海道帝國大學農學部農  
 〃 經濟學教室  
 〃 圖書館  
 〃 太  
 北海道拓殖銀行原支店  
 四 德島、阿波商業銀行本店  
 愛媛、今治商業銀行本店  
 〃 〃 松山支店  
 香川、志度商業學校  
 〃 〃 高松高等商業學校圖書室  
 〃 〃 商工經濟研究所  
 廣 島  
 廣備銀行本店  
 第一銀行廣島支店  
 住友銀行廣島支店  
 川崎第百銀行廣島支店  
 廣島工業新報社  
 廣島商業學校實業調查部  
 岡 山  
 中國銀行本店  
 〃 〃 地質調査所  
 〃 〃 總務部資料課  
 〃 〃 滿鐵經濟調査會  
 〃 〃 社長室文信課  
 山口、第一銀行下關支店  
 〃 〃 住友銀行下關支店  
 〃 〃 百十銀行本店  
 〃 〃 下關商工會議所  
 山口、山口高等商業學校東亞經  
 濟研究所  
 福 岡  
 福岡、十七銀行本店  
 〃 〃 第一銀行福岡支店  
 〃 〃 福岡日々新聞合資會社經  
 濟部  
 〃 〃 九州帝國大學農學部々長  
 博多、住友銀行福岡支店  
 久留米、第一銀行久留米支店  
 〃 〃 住友銀行久留米支店  
 門司、第一銀行門司支店  
 〃 〃 住友銀行門司支店  
 〃 〃 橫濱正金銀行門司支店  
 〃 〃 大分合同銀行門司支店  
 〃 〃 門司稅關  
 〃 〃 野村證券株式會社門司支店  
 〃 〃 大阪每日新聞社支局四島  
 拾丸  
 佐 賀  
 佐賀中央銀行本店  
 長 崎  
 長崎稅關  
 長崎市役所調査係  
 長崎高等商業學校圖書室  
 佐世保商業銀行  
 大 分  
 大分高等商業學校圖書室  
 〃 〃 商工調查部  
 鹿 兒 島  
 第百四十七銀行本店  
 津山學園  
 沖 繩  
 沖繩縣廳文書課長  
 那霸市役所文書課長  
 第百四十七銀行那霸支店

日本勸業銀行那霸支店  
 朝鮮 朝鮮總督府官房調査課  
 〃 〃 文書課  
 〃 〃 殖産局山林課  
 〃 〃 水産課  
 〃 〃 農務課  
 〃 〃 財務局課  
 朝鮮總督府稅關  
 朝鮮銀行本店  
 〃 〃 調査課  
 〃 〃 支店課長  
 朝鮮殖産銀行本店  
 〃 〃 調査課  
 朝鮮信託株式會社  
 朝鮮實業俱樂部社  
 關 東 州  
 大 連  
 南滿洲鐵道株式會社殖産局商工  
 課  
 〃 〃 地質調査所  
 〃 〃 總務部資料課  
 〃 〃 滿鐵經濟調査會  
 〃 〃 社長室文信課  
 橫濱正金銀行支店  
 朝鮮銀行支店  
 滿洲輸入組合聯合會  
 滿洲經濟研究會  
 大連商工會議所  
 臺灣總督府臺灣物産紹介所  
 瓜谷商店  
 滿洲中央銀行大連支店  
 滿 洲 國  
 滿洲國務院民政部總務司長  
 〃 〃 法制部統計處  
 〃 〃 財政部理財司理財科長  
 〃 〃 臨時產業調查局  
 滿洲中央銀行本店  
 〃 〃 調査課  
 〃 〃 奉天支店  
 南滿洲鐵道株式會社ハルビン圖  
 書館  
 東滿農業科學研究所  
 中 華 民 國  
 上 海  
 中央銀行稅務處  
 中外興信所  
 福 州  
 在福州日本帝國領事館  
 日本居留民會  
 臺灣公會  
 閩報館  
 廣 其 堂  
 廈 門  
 在廈門日本帝國領事館  
 臺灣公會  
 三井物產株式會社出張所  
 大阪商船株式會社出張所  
 廈門日本人商工金融組合  
 旭濱醫院商業課  
 全閩新報社

廣 東  
 在廣東日本帝國總領事館  
 橫濱正金銀行支店  
 三井物產株式會社出張所  
 華南銀行支店  
 漢 口  
 在漢口日本帝國總領事館  
 漢口日本商工會議所  
 三井洋行  
 香 港  
 在香港日本帝國總領事館  
 橫濱正金銀行支店  
 中日貿易公司  
 三井物產株式會社支店  
 三菱商會株式會社支店  
 蓬萊漁業株式會社  
 東勝洋行  
 新 嘉 坡  
 在新加坡日本帝國總領事館  
 新加坡日本商業會議所  
 日本人俱樂部  
 三井物產株式會社  
 三菱商會株式會社  
 日本郵船株式會社  
 大阪商船株式會社  
 橫濱正金銀行  
 華南銀行  
 南洋日々新報社  
 新加坡日報社  
 日本實業會社  
 南洋及日本人社  
 サンテイ商會  
 孟 買  
 在孟買日本帝國總領事館  
 孟買日商株式會社  
 カルカッタ日本商會館列館  
 バタビヤ  
 在バタビヤ日本帝國總領事館  
 三井物產株式會社バタビヤ出張  
 所  
 橫濱正金銀行バタビヤ支店  
 南洋協會バタビヤ出張所  
 南滿商會株式會社  
 南洋倉庫株式會社  
 倫 敦  
 在倫敦商務官事務所  
 日本銀行監督役  
 橫濱正金銀行  
 朝鮮銀行  
 三菱銀行  
 三井銀行  
 住友銀行  
 三井物產株式會社  
 三菱商會株式會社  
 紐 育  
 在紐育日本帝國總領事館  
 在紐育駐紮財務官事務所  
 在紐育商務官  
 日本銀行  
 臺 東 廳 ( 追 補 )  
 臺灣合同電氣株式會社

昭和十年十一月二十日發行 每月一回 十五日發行 第三種郵便物認可

昭和十年第二期米作付面積及穗數收穫高(單位:畝)

	水 稻				計
	蓬萊米	在來米	丸糯	長糯	
作付面積(甲)	117,846	170,817	66,675	13,552	368,890
前年同期	106,761	176,234	67,133	11,940	362,068
穗數收穫高(石)	1,729,570	2,115,455	787,037	176,212	4,808,324
前年同期實收	1,515,298	2,010,112	675,358	142,859	4,343,627

  

	陸 稻		計
	梗	糯	
作付面積(甲)	23,597	950	24,547
前年同期	27,224	950	28,174
穗數收穫高(石)	208,088	8,273	216,361
前年同期實收	227,261	6,652	232,913

昭和十一年、十二年期甘蔗作付高(單位:畝)

會社名	植付済 九月迄	今後の植 付見込	計	植付内譯	
				自作	一般作
臺灣	17,662	9,728	27,390	5,943	11,719
明治	17,095	5,220	22,315	2,671	14,424
大日本	19,142	9,372	28,514	3,158	15,984
鹽水港	12,428	7,593	20,011	2,551	9,377
帝國	3,047	7,261	10,308	1,855	1,192
昭和	3,628	2,661	6,289	449	3,179
新興	1,037	823	1,860	104	933
東 東	1,161	239	1,400	23	1,138
源 成	714	46	760	—	714
計	75,914	42,933	118,847	16,754	59,160

昭和十年九月中芭蕉實產高(單位:噸)

仕 向 地	箇 數	總實金額 円	平 均 円
東 京	21,441	107,342	5.01
橫 濱	5,824	28,285	4.86
名 古 屋	10,894	52,045	4.78
北 京	3,718	15,679	4.22
大 阪	3,627	17,892	4.93
神 戶	21,339	102,895	4.82
下 關	22,154	102,573	4.63
門 司	23,801	101,753	4.29
長 崎	22,378	99,724	4.46
計	3,325	17,820	5.36
計	138,501	646,013	4.66
一月以降累計	2,258,288	10,432,211	4.62
前年同期	1,973,404	8,832,171	4.48

昭和九年臺灣農業生產高

農 業	本 年		前 年	比較増 減
	實 價	實 價		
農 業	292,909,706	237,394,120	55,015,586	
工 業	215,645,339	209,609,270	6,036,069	
林 業	12,666,794	10,486,833	2,179,961	
礦 業	18,947,667	15,196,250	3,751,417	
水 産 業	16,633,604	15,959,484	674,120	
計	556,803,109	489,125,957	67,677,152	

備考・工業本年は概算

芭蕉實移輸出高(單位:噸)

九 月	臺 中 組 合			臺 南 組 合			高 雄 組 合			計
	本年	前年	差	本年	前年	差	本年	前年	差	
九 月	153,622	82,574	71,048	3,653	2,129	1,524	—	—	—	157,275
一月以	1,109,269	751,587	357,682	43,946	69,578	25,632	1,578,365	1,599,499	24,114	2,731,560
降 累 計	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年

  

九 月	本 島 炭 需 給 高 (千噸)			計	月末 貯炭
	出炭	輸出	移出		
九 月	121	11	7	48	45
前年	102	11	10	46	38
一月以	1,112	120	61	483	445
降 累 計	前年	前年	前年	前年	前年

昭和十年九月中肥料移輸入高(單位:噸)

九 月 中	魚 粕	魚 粉	其他 粉類	大豆油粕 (混保)	大豆油粕 (特製)	撒大豆 油 粕	大豆油 粕 粉	落花生 油 粕	花生油 粕 粉	菜 種 油 粕 粉	菜 種 油 粕 粉	油 粕 粉	其他植 物 質 肥
九 月 中	—	18,750	—	1,656,000	6,270,792	30,000	—	—	—	900	87,420	—	—
一月以降累計	20,880	68,902	—	115,836,482	50,317,344	300,788	28,125	—	150,000	9,240	87,480	54,420	600
單位容量(凡)	96.0	37.5	37.5	27.6	26.4	37.5	60.0	27.0	67.2	60.0	60.0	60.0	37.5

  

過磷酸 (15%)	過磷酸 (19%)	其他 過磷酸	磷 安		磷 酸 加 里	磷 酸 加 里	化 石 灰 索	其他礦 物 質 肥	化 成 肥 料	調 合 肥 料	計
			內國品	外國品							
992,250	4,183,151	—	7,409,500	3,339,000	—	30,000	194,018	322,560	2,263,200	3,502,313	30,304,850
13,311,820	27,563,605	415,837	62,445,700	61,673,800	2,285,000	693,951	2,453,794	1,048,063	27,910,656	33,279,153	399,950,644
28.0	28.0	37.5	100.0	100.0	100.0	100.0	22.5	37.5	60.0	37.5	—

昭和十年十月中臺北物價指數

(三旬末平均)

Table with columns for item name, unit, price, and comparison with previous months. Includes categories like rice, oil, sugar, and various goods.

騰貴(+) 賤落(-) 保存(x)

臺北種類別物價指數

Table showing price indices for different categories of goods (e.g., rice, oil, sugar) over time, with columns for year, month, and index value.

臺北物價指數平均對照表

Table comparing monthly price indices for various goods across different years (Taisho 3, 6, 9, 10) to show trends.

臺北卸物價調

(昭和十年十月三十一日現在)

Large table listing various commodities such as tea, sugar, oil, and building materials with their respective prices and units.

臺北市賃銀調

(昭和十年十月末現在)

Table of wages and working hours in Taipei. Columns include occupation (種), category (別), wage (賃銀), and working hours (労働時間). Rows list various jobs like tea processing, bamboo manufacturing, and garment making.

昭和十年十一月二十日發行(毎月一、四、七、十、十三、十六、十九、二十二、二十五、二十八、三十一日發行)

金融經濟統計

1 臺灣銀行券發行高及補助貨流通高 (千圓) (昭和十年)

Table showing the high and circulation of Taiwan Bank notes and auxiliary goods. Columns include month/year, highest, average, lowest, and various categories of circulation.

2 各銀行金利 (昭和十年十月)

Table of interest rates for various banks. Columns include bank name, deposit type, and interest rate.

3 臺北T/T賣為替相場及倫敦紐育銀塊相場 (昭和十年)

Table of exchange rates for T/T in Taipei and London/New York silver blocks. Columns include location, date, and rate.

4 東京T/T賣為替相場米英為替及倫敦金塊相場 (昭和十年)

Table of exchange rates for T/T in Tokyo, rice/sterling exchange, and London gold blocks. Columns include location, date, and rate.

5 手形交換高及不渡手形 (昭和十年)

Table of bill exchange and non-transferable bills. Columns include date, location, and amount.

6 臺灣各地手形交換所組合銀行勘定

(い) 預金科目別 (昭和十年十月末)

Table with 8 columns: 基隆, 臺北, 臺中, 臺南, 高雄, 計, 前月. Rows include 當座預金, 特別當座預金, 定期預金, 其他諸預金, 計, 前年同月期.

備考・ろ表との連絡上日本勸業銀行分を含まず

(ろ) 貸出科目別 (昭和十年十月末)

Table with 8 columns: 基隆, 臺北, 臺中, 臺南, 高雄, 計, 前月. Rows include 別引手形貸, 手形貸, 當座貸, 當座貸, 當座貸, 當座貸, 計, 前年同月期.

備考・日本勸業銀行分は勘定科目を異にせるを以て本表には便宜之を省きたり

(は) 預金銀行別 (昭和十年十月末)

Table with 8 columns: 基隆, 臺北, 臺中, 臺南, 高雄, 計, 前月. Rows include 臺灣銀行, 臺灣商工銀行, 彰化銀行, 華南銀行, 日本勸業銀行, 計, 前年同月期.

(に) 貸出銀行別 (昭和十年十月末)

Table with 8 columns: 基隆, 臺北, 臺中, 臺南, 高雄, 計, 前月. Rows include 臺灣銀行, 臺灣商工銀行, 彰化銀行, 華南銀行, 日本勸業銀行, 計, 前年同月期.

7 各銀行預金貸出金残高

(い) 總額 (千圓) (昭和十年)

Table with 11 columns: 預金, 貸出金. Rows include 昭和十年九月末, 前月末, 前年同月末.

(ろ) 預金科目別 (千圓) (昭和十年九月末)

Table with 10 columns: 當座, 特別當座, 定期, 通知, 預金手形, 別段, 計, 前月末, 前年同月末. Rows include 臺灣銀行, 日本勸業銀行, 臺灣商工銀行, 彰化銀行, 華南銀行, 三和銀行, 計, 前月末, 前年同月末.

備考・上記の外、臺灣商工銀行貯蓄預金12千圓、臺灣銀行日銀預金4,416千圓。

(は) 貸出金科目別 (千圓) (昭和十年九月末)

Table with 11 columns: 證券貸, 手形貸, 利付爲替手形, 當座貸, 爲替當座貸, 割引手形, 荷付爲替手形, 買入爲替, 計, 前月末, 前年同月末. Rows include 臺灣銀行, 臺灣商工銀行, 彰化銀行, 華南銀行, 三和銀行, 計, 前月末, 前年同月末.

(に) 日本勸業銀行貸出金科目別 (千圓) (昭和十年)

Table with 7 columns: 短期貸, 年賦貸, 定期貸, 手形貸, 當座貸, 保證貸, 計. Rows include 昭和十年九月末, 前月末, 前年同月末.

(ほ) 臺灣貯蓄銀行預金貸出金科目別 (千圓) (昭和十年)

Table with 13 columns: 普通貯蓄, 特約貯蓄, 摺貯蓄, 定期積蓄, 定期預金, 計, 證券, 不動產, 預金, 定期積蓄, 割引貸, 賦還貸, 計, 銀行引受手形. Rows include 昭和十年九月末, 前月末, 前年同月末.



8 各銀行重要物產放資額及殘額 (昭和十年)

Table with columns for commodity types (sugar, rice, tea, etc.), bank names (Industrial Bank of Japan, etc.), and financial figures for 'Release Amount' and 'Residual Amount'.

9 各銀行為替取組高 (千圓) (昭和十年九月)

Table showing exchange rates and remittance volumes for various banks (Industrial Bank of Japan, etc.) across different regions (Inland, Outside, etc.).

10 各銀行島外為替取組高品別

(イ) 臺灣內地間 (千圓) (昭和十年九月)

Table detailing remittance volumes by commodity type (fertilizer, clothing, etc.) for banks operating between Taiwan and the mainland.

(ロ) 臺灣外國間 (千圓) (昭和十年九月)

Table detailing remittance volumes by commodity type for banks operating between Taiwan and foreign countries.

### 11 信用組合概況 (千圓)

(昭和十年)

	貸付金 引手形	預ケ金	計	拂込 出資金	準備金及 積立金	剰餘金	貯金	借入金	計	貯金内訳								
										組合員	家族及 團體	組合 員外	加入 者					
市街地	昭和十年七月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年同月	15,930	7,071	23,001	3,017	2,848	441	18,937	144	25,387	6,096	8,594	4,247	—	—	—	—	—
農村	昭和十年六月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年同月	54,685	20,326	75,011	10,924	9,468	1,199	52,160	11,296	85,047	23,294	28,865	—	—	—	—	—	—
	前年同月	50,722	12,857	63,579	10,694	9,072	1,243	39,200	10,440	70,649	17,332	21,866	—	—	—	—	—	—

	貸付金			貯金			借入金			預ケ金			手形割引					
	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低			
市街地	昭和十年七月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年同月	3.4	2.7	1.8	2.8	1.1	0.4	2.2	1.4	1.2	1.6	0.8	0.3	3.3	2.8	2.5	—	—
農村	昭和十年六月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年同月	4.6	3.0	0.8	3.2	1.5	0.3	4.0	1.3	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年同月	5.0	3.0	1.0	3.5	1.5	0.4	4.2	1.8	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—

### 12 郵便貯金 (昭和十年)

	預入			拂戻			現在高		貯金利率 (平均七厘)
	新規人員 人	取扱口数 口	金額 千圓	全拂人員 人	取扱口数 口	金額 千圓	人員 人	金額 千圓	
昭和十年十月(概算)	6,760	133,117	2,074	5,082	72,277	2,119	549,973	21,916	普通 3.24
前月(概算)	5,116	117,696	1,701	3,186	57,930	1,849	548,295	21,960	据置 3.48
前年同月(概算)	6,086	134,204	1,953	4,089	62,827	1,860	528,940	20,127	

### 13 郵便爲替取扱高 (千圓)

(昭和十年)

	島内各局振出					島内各局拂渡				
	臺灣拂渡	内地拂渡	朝鮮拂渡	滿洲拂渡	計	臺灣振出	内地振出	朝鮮振出	滿洲振出	計
昭和十年八月	1,225	1,095	14	13	2,347	1,225	211	7	13	1,456
前月	1,350	1,228	19	11	2,608	1,350	233	7	15	1,605
前年同月	1,169	1,044	12	9	2,234	1,169	201	8	13	1,390

### 14 振替貯金取扱高 (千圓)

(昭和十年)

	(い) 口座拂込				(ろ) 口座振替				
	内地	朝鮮	滿洲	計	内地	朝鮮	滿洲	計	
昭和十年七月	930	28	1	959	47	4,813	565	29	1,625
前月	765	18	0	783	58	5,481	400	169	2,013
前年同月	631	6	6	643	28	7,167	404	37	1,957

	(は) 證書拂渡				(に) 合計				
	内地	朝鮮	滿洲	計	内地	朝鮮	滿洲	計	
昭和十年七月	1,339	3	0	1,342	61	2,304	2,834	137	8,742
前月	3,774	1	0	3,775	55	1,677	4,939	282	9,171
前年同月	4,051	0	1	4,052	57	2,364	5,086	122	11,488

### 15 官設鐵道運輸 (本線) (昭和十年)

	貨物噸數					乘車人員 (千人)	收入(千圓)			
	石炭	砂糖	肥料	米	其他		客車	貨車	計	
昭和十年九月(概算)	87,380	3,335	34,070	78,780	199,080	402,645	1,648	641	992	1,633
前月(概算)	88,199	5,425	69,389	100,825	194,532	458,370	1,602	699	1,124	1,823
前年同月(概算)	73,457	2,065	37,614	102,963	176,542	392,641	1,568	615	954	1,569

### 16 倉庫貨物出入殘高 (昭和十年)

	臺灣米			砂糖			食料品			織物製品		
	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高
個數(千圓)	335	389	71	4	12	58	104	111	143	1	0	10
前月	419	401	125	8	21	66	106	67	150	0	0	9
前年同月	442	473	72	4	12	21	195	145	166	0	0	1
金額(千圓)	3,078	3,617	629	87	203	552	356	374	782	30	43	120
前月	4,288	4,132	1,168	155	279	668	460	328	800	22	17	133
前年同月	3,545	3,868	561	89	316	226	713	511	776	27	19	10

	人造肥料			油類			其他			計		
	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高	入庫高	出庫高	殘高
個數(千圓)	156	199	94	103	62	217	374	390	113	1,082	1,163	706
前月	374	444	137	36	73	171	483	520	129	1,426	1,526	787
前年同月	170	142	118	105	59	174	295	341	94	1,211	1,172	646
金額(千圓)	850	956	564	313	264	637	2,895	3,127	1,176	7,609	8,584	4,460
前月	1,764	2,078	670	111	307	588	3,958	3,978	1,408	10,758	11,119	5,435
前年同月	801	859	524	280	198	584	2,763	2,883	1,113	8,208	8,654	3,794

臺灣金融經濟月報

	輸出											計	
	包種茶	烏龍茶	紅茶	棉織物	石炭	鹹乾魚	芭蕉實	檳榔	樟腦	鳳梨罐頭	毛織物		其他
昭和三十九年九月	444	1,394	322	838	12	2,636	1,208	113	59	217	72	—	—
前年同月	454	1,310	136	802	11	948	1,059	60	64	24	38	—	—
前年同月	576	1,126	552	116	10	1,715	696	67	118	41	18	—	—
前年同月	3,393	4,181	1,228	10,205	117	7,122	29,266	1,110	764	217	289	—	—
前年同月	3,539	3,391	3,870	3,949	115	5,700	28,276	883	1,498	144	68	—	—
昭和三十九年九月	304	815	227	161	111	311	48	60	76	114	135	916	3,278
前年同月	275	834	89	145	102	144	37	32	88	54	62	821	2,683
前年同月	358	783	358	30	86	197	21	32	146	101	34	651	2,797
前年同月	2,070	2,557	757	1,808	1,059	978	695	553	988	507	491	14,726	27,189
前年同月	1,983	2,142	2,352	801	1,025	739	615	441	1,712	384	173	6,274	18,641

	輸入											計	
	肥料	揮發油	重油	大豆	包糖	甘藷	穀	鹹魚	葉煙草	阿片	燈油		其他
昭和三十九年九月	22,769	307	1,698	4,830	549	185	2,919	2,211	53	10	403	—	—
前年同月	32,950	94	—	5,508	1,368	412	7,601	—	—	9	—	—	—
前年同月	8,283	109	367	2,931	359	445	2,569	—	—	6	29	—	—
前年同月	357,879	2,341	6,829	49,234	3,905	5,488	42,450	7,106	425	25	1,034	—	—
前年同月	368,616	1,683	5,769	46,451	4,103	3,827	54,658	7,099	509	6	502	—	—
昭和三十九年九月	1,090	152	222	267	52	71	97	193	43	175	96	954	3,417
前年同月	1,549	50	—	313	112	135	261	—	—	156	—	599	3,175
前年同月	316	63	47	142	29	148	80	—	—	121	8	850	1,804
前年同月	16,365	1,326	956	3,015	342	2,177	1,528	445	858	449	289	5,601	33,351
前年同月	14,044	1,130	803	1,917	301	1,417	1,654	366	397	121	174	5,363	27,687

	移出											計	
	砂糖	米	芭蕉實	椰子	鳳梨罐頭	糖	酒精	樟腦油	樟腦	切乾薯	食鹽		其他
昭和三十九年九月	1,210	1,287	140	594	189	16,573	15,407	349	104	6,154	13,929	—	—
前年同月	3,111	1,373	147	405	582	10,474	16,904	340	137	6,686	10,800	—	—
前年同月	11	1,530	79	713	221	9	9,420	436	99	11,196	19,604	—	—
前年同月	1,327,766	7,698	2,502	4,626	2,443	132	127,176	3,025	1,450	40,031	74,024	—	—
前年同月	987,162	9,093	2,062	10,045	1,872	104	98,915	3,189	1,156	39,230	68,265	—	—
昭和三十九年九月	145	13,399	456	243	426	850	517	170	146	176	157	1,696	18,381
前年同月	365	13,818	475	165	1,384	613	558	146	183	181	132	1,707	19,727
前年同月	2	13,150	407	275	487	443	493	190	124	335	187	1,291	17,384
前年同月	134,943	77,857	8,415	2,154	5,551	6,941	5,484	1,493	1,864	1,143	726	13,837	260,408
前年同月	109,102	72,492	6,841	2,742	3,987	5,545	5,359	1,362	1,299	1,105	755	12,343	222,932

	移入											計	
	絹及絹織物	銀	鹹乾魚	木材	肥料	小麥粉	紙卷	紙	毛織物	メリヤス肌衣	其他		
昭和三十九年九月	—	2,202	5,476	979	15,773	143	81,660	—	—	—	—	—	—
前年同月	—	6,564	4,149	743	45,608	141	85,300	—	—	—	—	—	—
前年同月	—	4,880	2,499	889	37,357	99	57,500	—	—	—	—	—	—
前年同月	—	69,225	24,644	3,848	187,437	914	700,660	—	—	—	—	—	—
前年同月	—	46,322	16,176	6,694	152,766	666	640,020	—	—	—	—	—	—
昭和三十九年九月	1,981	1,402	649	710	1,420	459	555	671	351	433	371	9,960	18,962
前年同月	1,574	1,078	556	556	4,601	438	578	617	353	355	303	8,877	19,886
前年同月	1,645	846	307	688	3,332	338	118	299	345	543	375	7,812	16,648
前年同月	15,340	11,262	3,213	6,933	16,700	3,112	4,796	3,890	3,561	1,476	1,483	81,117	152,883
前年同月	11,303	8,135	2,193	5,088	12,145	2,283	1,309	2,569	3,240	1,234	1,187	70,005	120,693

臺灣金融經濟月報

定期刊行

中華民國十一年一月三十一日

(第七四號) 昭和十年十二月號

研究資料目次

- 廣東金融事情
- 生藥クミスクチンの栽培に就て
- 附・讀者の御回鑒に就て
- 魚類肝油に就て
- 支那の對外為替相場低落と臺灣の芋麻栽培事業に對する影響

財界錄事

財政及金融

▲臺灣殖產會社創立に關する法律案は既に拓務省に送附して審議中の由なるが審議室川村事務官は約一箇月の豫定にて十一月二十七日東上せり。

▲臺灣商工銀行は十一月十八日臨時株主總會を開き、山中佐太郎氏(三和銀行臺北支店長)を取締役に選任せり。

△十一年度商工省豫算に於て問題の「石油保有義務」に對しては二百七十萬圓の補償費豫算承認せらる。

▲臺灣商工會議所法は府議決定を見たるを以て拓務省經由法制局に廻付する手筈なる由(十二月三日)

砂糖

▲糖業聯合會に於ける昭和十一年度砂糖供給協定は前號所載の通りなるが更に本年度内追加供給に關し、協議の結果下の如く決議せり。

(一)昭和十年十月十八日決議により供給増加數量を一種糖二十五萬擔、二種直消糖及び耕地白糖七十五萬擔、計百萬ピクルとし、昭和十一年一月一日より追加供給をなすこと、但し期限前と雖も供給不足の虞れありと認めたる地方に於ては其の地方に限り繰上げ追加供給をなすこと。

(二)昭和十一年一月三十一日迄の出入状態を調査し、尙供給不足の虞れありと認めたる場合は市場の實情に即し、適當の方法に依り適宜數量の追加供給を爲すこと。

▲各製糖會社本期の製糖作業は鹽鹼新營工場の十一月十五日の操業開始を先頭として各社工場作業を始めたが、全工場四十七の中年内開始四十二工場の豫定なり。

▲赤糖統制機關組織に關しては昭和七年既に問題となりたるも其の後赤糖總產額の約三割を占むる改良製糖たる三五公司源成農場製糖場の新式製糖場變更により自然立消の姿となれり。然るに最近産糖は復又漸増の傾向を辿り、昭和十、十一年期の如きは島内消費約二十五萬擔に對し、産糖は四十萬擔に達せんとし、供給過剩の状態益々濃厚となり、之が統制の必要を痛感し、夫々各州に於て赤糖協會を組織することとなり、新竹州は(11/4)、臺北州は(11/6)、臺中州は(11/7)、高雄州は(11/12)臺南州は(12/6)、花蓮港廳は(11/20)設立せられ、更に之等全島を網羅する赤糖聯合會の設立を計畫進行中なり(起草委員 臺北州黃再森、林木火、新竹州邱雲溪、臺中州陳棧治、臺南州陳按察、高雄州黃敏府、花蓮港廳鍾永昌)。

▲臺灣銀行検査課長長谷川貞成氏は鹽水港製糖會社